

ひとが集まる
学校図書館のつくりかた
～県立学校図書館活性化指針～

令和6年3月

三重県教育委員会

三重県学校図書館協議会 司書部

目次

1 はじめに	
(1)指針策定の趣旨	1
(2)指針の対象校と期間	1
(3)めざす姿	2
(4)現状と課題	2
2 活性化に向けて	
(1)アクションの方向性	3
(2)共通評価指標	7
(3)活性化のための校内体制	7
(参考)モデル校実践集	
(1)モデル校実践集の目的	8
(2)モデル校決定からリニューアルプラン提出までの流れ	8
(3)モデル校の推進体制例	9
(4)令和5年度実践例	10
事例1 いなべ総合学園高等学校	10
事例2 津高等学校	18
事例3 久居農林高等学校	26
事例4 伊勢工業高等学校	31
事例5 鳥羽高等学校	37
事例6 伊賀白鳳高等学校	43
事例7 木本高等学校	51
(5)令和5年度モデル校報道まとめ	58

1 はじめに

(1) 指針策定の趣旨

読書は児童生徒が新しい世界やさまざまな価値観に触れ、自分と向き合い、考えを深めるうえで重要な活動です。また、読書体験を積み重ねることで、児童生徒の思考力・判断力・表現力等が磨かれ、学びの基礎が築かれていきます。読書を通じて知り得た知識や味わった感動が、児童生徒の学ぶ楽しさや知る喜びとなり、生涯にわたって学び続けることへとつながっていきます。

このように、読書は、児童生徒の成長にとって不可欠な手段のひとつです。

国においては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、令和5年3月に閣議決定された第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(以下、「国の第五次計画」という。)で、基本方針として「不読率の低減」「多様な子どもたちの読書機会の確保」「デジタル社会に対応した読書環境の整備」「子どもの視点に立った読書活動の推進」の4つを掲げています。

本県においても、令和2年3月に第四次「三重県子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進するためのさまざまな事業を行ってきました。また令和4年10月に策定された中期戦略計画「みえ元気プラン」でも教育の充実が重点的な取組の一つに挙げられ、その具体的な方策の例として学校図書館の活性化が示されました。

これらを踏まえ、三重県教育委員会では令和5年度より、県立学校において生徒がより行きたくなる図書館づくりを目指す「本を読もう！読書活動推進事業」に着手しました。初年度はモデル校として7つの県立学校を選定し、各校が策定したりリニューアル計画に基づき、自校の特色に応じた図書館づくりに取り組みました。

そしてこのたび、モデル校における実践(アクション)を参考に、三重県の学校図書館がめざす姿や、活性化に向けて取り組むべきアクションを明確にするため、「ひとが集まる学校図書館のつくりかた～県立学校図書館活性化指針～」を策定します。

なお、本指針は今後の基本的な考え方を明らかにするものであり、具体的な取組をイメージするためにさまざまな事例を掲載していますが、特定の運営や取組の実施を義務付けるものではありません。

(2) 指針の対象校と期間

対象となる学校	学校司書が勤務している三重県立学校の図書館
指針の期間	令和6(2024)年度から令和8(2026)年度までの3年間

(3)めざす姿

三重県教育ビジョンにおける「めざす姿」(基本施策1(6)より)

子どもたちが、読書活動を通じて、歴史や文学、科学、芸術など、さまざまな分野への関心を高め、感性や情操を磨き、幅広い視野や知識を統合して考える力と豊かな人間性を身につけています。

県立学校図書館がめざす姿

学校図書館が、児童生徒の生涯にわたって学び続ける力や、思考力・判断力・表現力の基礎となる読む力を育むために、各学校の教育方針に沿った多様な児童生徒の居場所となっています。また、教職員と連携して授業支援に取り組むとともに、家庭をはじめとした多様な主体と連携し読書のきっかけづくりに取り組んでいます。

(4)現状と課題

国の第五次計画によると、平成13年度と比較して令和4年度では読書量は増加しています。しかし、1か月に本を1冊も読まない子どもの割合(不読率)は、令和4年度の高校生について不読率26%以下という目標に対し、実際は51.1%(公益社団法人全国学校図書館協議会による令和4年度調査結果)となり、国の第四次計画の目標を達成できていない状況にあります。読書習慣のない児童生徒に対しては、いつ、どこでも読書に親しむことができる環境をつくり、読書習慣がある児童生徒に対しては、より読書を身近にすることで、今まで以上に読書に対する優先度を上げ、読書を通じて自ら広く情報を収集したり深く分析したりするなど、読書機会を拡充することにより不読率の改善を図る必要があります。

また三重県学校図書館協議会司書部が毎年発行している「学校図書館白書」によると、その年度に1回以上本を借りた生徒の割合(貸出利用者率)の過去5年間でみると、2018年度の38%が最高で、新型コロナウイルス感染症が流行した2020年度は32.8%、2022年度においても33.9%と、40%を超えない状況が続いています※1。

このような中、すべての児童生徒の可能性を引き出すために、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実にあ資する読書環境を整備するとともに、児童生徒が自分たちの学校の図書館を自分たちの居場所と感じ、さまざまな形で図書館に親しみ、本を手取るきっかけをつくるのが重要です。

今後も学校図書館のより一層の活性化に取り組むとともに、司書が持つスキルを十分に活用することで児童生徒の読書活動の推進につなげる必要があります。

※1 2017年度37%、2018年度38%、2019年度36.6%、2020年度32.8%、2021年度35.3%、2022年度33.9%

2 活性化に向けて

(1)アクションの方向性

1 県立学校図書館は、学校が目指す「主体的・対話的で深い学び」「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現をサポートし、児童生徒の自分自身で生涯学んでいく力を伸ばします

- 中央教育審議会が令和3年1月に取りまとめた『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)』(以下「中教審答申」)では、学校では「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が重要であると指摘しています。
- 三重県が令和2年度、これからの高等学校のあり方や望ましい学びについてさまざまな立場の有識者等から意見をいただくために開催した「県立高校みらいのあり方検討委員会」では、正解か不正解か以外の答えがあることを知ること、読書での自己内対話で対話的な学びを養うことの重要性等が指摘されました。
- 県立学校図書館は、家庭、社会教育施設、民間の関係団体等、多様な主体(以下「家庭・地域」という。)とも連携しながら、児童生徒が授業や探究活動等の活動において、自らの課題を発見して解決する楽しさや自ら学んでいく力を伸ばせるよう、資料・情報を通じて支援します。

参考事例

- ・保健の授業で探究活動をサポートするため、ゴミ問題、食品、医療NGOなど、10種以上のテーマのパスファインダーを作成。「百科事典の使い方」「新聞雑誌の使い方」などの調べ方全般に関するパスファインダーも提供。
(石薬師高等学校図書館)
- ・他校や研修で学んだ授業支援事例や新聞データベースの活用事例を教員に紹介。美術の授業で絵画を参考に制作した生徒作品を該当本と展示するなど、成果物発表の場として授業後の支援に取り組む。
(名張高等学校図書館)
- ・年1回、1時間の図書館文化講演会を開催。絵本作家の服部美法氏、卒業生で小説家の楓屋ナギ氏、斎宮歴史博物館 学芸員の榎村寛之氏、作家の伊吹有喜氏など、多彩な方々を講師に招いた。
(津西高等学校図書館)

2 県立学校図書館は、児童生徒の読解力や思考力・判断力・表現力を育むために、読書をはじめとした図書館での体験を提供します

- 令和5年7月、文部科学省は「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」を公表しました。学習過程において異なる視点を得て議論を深める目的で生成AIを使用するなどの活用法の例示をしつつ、生成AIを活用するには真偽を判断する能力が必要であると指摘しています。
- 第四次「三重県子ども読書活動推進計画」では、子どもの読書活動は、想像力を育み、感性を磨き、表現力等を高め、コミュニケーション能力の基礎となること、さらに思考力、表現力等の育成において読書が重要であると述べています。
- 県立学校図書館は、読書にとどまらない、図書館でのさまざまな体験を提供することを通じて、思考力・判断力・表現力、さらには情報を見極める力の基礎となる「読む力」を育みます。

参考事例

- ・ 家庭、社会、理科の新聞記事を使った授業を支援。賛否の記事のバランスを合わせたり、該当記事をあらかじめ枠で囲んでおくなど、授業の目標設定に沿ってサポート。
(水産高等学校図書館)
- ・ 新書点検読書、「クリティカルリーディング」を取り入れた読書会
(津西高等学校図書館)

3 県立学校図書館は、自校が掲げる教育活動方針に沿った図書館サービスを提供します

- 中教審答申では、学校の設置者が各学校の存在意義や求められる社会的役割である「スクール・ミッション」を再定義し、各学校に教育活動の指針である「スクール・ポリシー」を組織的かつ主体的に策定することを求めています。
- 三重県のすべての県立学校では、「目指す学校像」と、学校の状態や取り巻く環境についての認識を教職員で共有し、それらをふまえた学校の中長期的な重点目標や当該年度の行動計画を立てるとともに、実践の進捗を管理・評価し、改善に結びつけるためのツールとして「学校マネジメントシート」を策定・公表し、学校運営の指針、指標として教育活動を展開しています。
- 県立学校図書館は、自校の「学校マネジメントシート」と学校の特色に応じて、児童生徒、教職員の教育活動に資する図書館サービスを提供していきます。

参考事例

- ・ 資格・検定取得を目指す生徒が参考書や問題集を選ぶ際に役立つブックリストを6種類作成。問題集の内容や回答の場所などといった資料の特色や、他年度の所蔵情報などといったコメントを追記。試験説明会にて配付。
(四日市中央工業高等学校図書館)
- ・ 海外にルーツを持つ生徒が図書館を利用できるよう、英語・ポルトガル語・スペイン語で書かれた図書館利用案内を作成。日本語の図書館利用案内も伝わりやすい日本語にし、図書館の配布物・掲示物にルビを振った。
(みえ夢学園高等学校図書館)

4 県立学校図書館は、多様な児童生徒を受容した読書活動を推進するため、さまざまな手段により、一人ひとりの実情に応じた読書環境の整備を行います

- 中教審答申では、日本語指導が必要な児童生徒は10年前の1.5倍となっていること、また18歳未満の子どもの相対的貧困率は13.5%となっていること、さらに思考力・判断力・表現力や学びに向かう力は、家庭の経済事情など児童生徒を取り巻く環境により差が生じやすいことを指摘しています。
- 国の第五次計画では、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒が増加しており、読書活動の推進にあたっては、多様な児童生徒を受容し、それに対応した取組を行うことが重要とされています。
- 県立学校図書館は、多様な児童生徒に読書体験を提供するため、大活字本や録音図書などの読書バリアフリー法に則した資料や、多言語対応の資料等の活用を行うとともに、音声読み上げ、文字拡大、色反転、ルビ表示等が可能なアクセシブルな電子書籍の活用等を検討していくことで、一人ひとりの実情に応じた読書環境の整備をめざしていきます。

参考事例

- ・ 読書補助具であるリーディングトラッカーやリーディングループを図書館に設置し、周知。
(みえ夢学園高等学校図書館)
- ・ 海外にルーツを持つ生徒のために、英語を中心とした外国語資料と、やさしい日本語で書かれた短編集、日本語検定の参考書などを提供。
(みえ夢学園高等学校図書館)

5 県立学校図書館は、すべての児童生徒の居場所となり得るよう、開館を保障し、館内設備の充実と利用機会の確保に努めます

- 国の第五次計画では、学校図書館は、児童生徒、教職員が最大限利用できるよう、また、生徒の居場所となり得ることをふまえ、児童生徒の登校時から下校時までの開館に努めるなど、教職員の業務負担の軽減に配慮しつつ、多様な背景を持つ児童生徒に読書や学習の場の提供と、資料設備の充実に努めることとされています。
- 伊丹市立図書館ことば蔵は、「公園のような図書館」をコンセプトに「交流フロア」を設置し、市民のアイデアを取り入れつつ年間200回を超えるイベント実施、地元商店主が講師となる「まちゼミ」開催などの取組が高く評価されています。このように、人と人の交流の場としての図書館の取組が注目されてきています。
- 県立学校図書館は、校内における居場所として、また読書や学習の場としてはもちろんのこと、児童生徒の成果発表の場、校内・校外を問わずさまざまな人々と交流できる場としての役割を果たせるよう、できる限り開館に努めます。

参考事例

- ・ 定時制生徒の登校時間に図書館が開館できるよう、週に2回、2時間勤務の学校図書館サポーターを配置し、午後7時まで開館時間を延長。学校図書館サポーターの業務内容は、主に開館準備と学校司書の業務補助。
(木本高等学校図書館)
- ・ 立地上の理由から図書館へのアクセスが課題となっている中、生徒が本に親しむ機会を創出するため、週に2回昼休みに、生徒の通行が多い廊下で、図書館の蔵書の一部を閲覧・貸出可能な状態で展示。
(尾鷲高等学校図書館)
- ・ 高校生工務店などの活動のシンボルとなり、生徒同士の情報交換・交流にも役立つ掲示板(アイデアタワー)を制作、図書館内に設置。
(伊勢工業高等学校図書館)
- ・ ドリンク・生徒製作スイーツの提供、外部講師の進行によるボードゲーム体験を合わせた図書館カフェの開催。
(久居農林高等学校図書館)

6 県立学校図書館は、蔵書やデータベースをはじめとした図書館の資源を活用して、教職員が新しい学びの授業を充実させるための取組をサポートします

- 中教審答申では、教師と事務職員、多様な外部人材や専門スタッフ等とがチームとなり、家庭や地域社会と連携しながら、共通の学校教育目標に向かって学校を運営していくことが提案されています。また、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成や、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習の推進など、教科等間のつながりを意識して教育課程を編成・実施することが重要とされています。
- 県立学校図書館は、図書を中心とした蔵書や新聞記事等のオンラインデータベース、さらには他の図書館との相互貸借など図書館の機能を活用することであらゆる分野の資料や情報を提供できる強みを活かし、授業、探究活動等で教科横断的な視点に立って、教職員をサポートします。

参考事例

- ・国語をはじめとした授業や探究活動で新聞記事が利用できるよう、記事の検索と印刷が可能な新聞記事データベース(中日新聞、朝日新聞など)を図書館で契約し、活用方法を周知。
(多数の県立学校図書館)
- ・新聞を活用した授業例を紹介。授業で活用できそうな新聞記事を紹介するほか、記事をファイリングして関連図書と一緒に職員室に設置、新聞の活用を促す。パスファインダーやプリントを作成。
(水産高等学校図書館)

7 県立学校図書館は、児童生徒や教職員が多様な読書の楽しさや有用性を発見できるように、積極的な情報発信や家庭・地域との連携に取り組みます。

- 三重県教育委員会が県立高校の生徒を対象として令和2年12月に実施したアンケート(回答者数3,373人)では、図書館を全く利用しない生徒が全体の56%にのぼり、その理由には「行く理由がない」、「読みたい本がない」といったことが挙げられています。
- 国の第五次計画では、保護者の役割として子どもの読書活動の機会の充実と読書の習慣化を求めつつ、学校などが連携・協力して、必要な支援を行う必要があるとしています。
- 県立学校図書館は、ICTも活用しながら図書館の活動や本についての情報を積極的に発信することで、児童生徒と本をつなげていきます。また、家庭・地域とも連携しながら、本を介したコミュニケーションの機会の創出にも取り組みます。

参考事例

- ・株式会社カーリルによる「学校図書館支援プログラム」(無償)を導入し、Web上で学校図書館の蔵書の検索サービスと予約申込サービスを提供。
(多数の県立学校図書館)
- ・生徒の本の感想を検索できる「生徒の推し本データベース」の構築と公開
(いなべ総合学園高等学校図書館・津高等学校図書館)
- ・近隣高齢者施設へ月1回「出前図書館」実施、地域の子どもたちを対象にした読み聞かせなどの図書館イベントの実施。
(南伊勢高等学校校友会校舎図書館)
- ・図書館イベント「乱歩カフェ」「江戸川乱歩ビブリオバトル&フィールドワーク」を地域のカフェ、皇學館大学、江戸川乱歩館(鳥羽商工会議所)と連携して実施
(鳥羽高等学校図書館)

8 県立学校図書館は、自校の目的・目標に沿う形で自館の評価・改善を行います

- 文部科学省の学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議による平成28年「これからの学校図書館の整備充実について(報告)」では、学校図書館の評価にあたっては、アウトプット(学校目線の成果)・アウトカム(児童生徒目線の成果)の観点から行うことが望ましいとされています。
- 県立学校図書館は、それぞれの学校の教育活動指針と児童生徒一人ひとりの実情に沿って図書館の目標を設定・共有し、改善を続けることで、自校の目標達成に寄与していきます。

参考事例

- ・「学校マネジメントシート」に図書館の役割と評価指標を記載する
- ・年度はじめと終わりに職員会議で図書館の目標を共有する
- ・支部研修会で前年度の成果と課題を振り返る機会を持つ
- ・「本を読もう！読書活動推進事業」モデル校による成果指標(10ページより)

9 県立学校図書館は、学校司書の専門性を高めることで、多様な児童生徒に個別最適な読書環境の提供を可能とします

- 国の第五次計画では、学校図書館を有効に活用し、子どもの読書活動を推進するためには、司書教諭及び学校司書が専門的な知識・技能を習得し、専門性等を一層発揮することが重要とされています。また、学校に対して、教職員の読書活動に対する意識の高揚や指導力の向上、学校図書館を活用した指導の充実、教職員間の連携を促すよう求めています。
- 県立学校図書館の学校司書は、校内外の研修・研究会へ積極的に参加し、優れた事例について学んだり、他校の学校司書と情報を交換しあったりすることを通じて知見を高め、学校図書館がより活用されるよう、自校での実践につなげていきます。

(2) 評価指標

三重県全体での学校図書館の活性化の達成度を評価するための指標として、その年度に1回以上本を借りた児童生徒の割合を表す「貸出利用率」を設定します。

項目	現状値	令和8年度目標値	項目の説明
貸出利用率	33.9% (令和4年度実績)	40.0% (令和8年度実績)	学校図書館協議会司書部に加盟する学校(公立小中学校を除く)の生徒のうち、その年度に1回以上本を借りた生徒の割合

※三重県学校図書館協議会司書部「学校図書館白書」から(私立学校9校を含む)
(令和8年度実績で貸出利用率40.0%をめざします)

また各校が、自校の特性や地域性を考慮して、独自に評価指標を設定することも可能です。例えば以下のような指標が考えられます。

- ・図書館の総合的な満足度
- ・一度でも図書館に来館したことのある生徒の割合
- ・図書館に行きやすくなったと回答した生徒の割合
- ・1日あたりの来館者の平均人数

(3) 活性化のための校内体制

平成28年11月29日付の文部科学省「学校図書館の整備充実について(通知)」における「別添1 学校図書館ガイドライン」では、学校図書館の館長としての役割を担う立場である校長のリーダーシップの下、教職員と連携しつつ、計画的・組織的に学校図書館の運営がなされることが望ましいとされています。

本指針の推進においても、それぞれの学校において、図書館長の役割を担う校長のリーダーシップのもと、学校全体で組織的に図書館の活性化を推進することが重要です。

(参考) モデル校実践集

(1) モデル校実践集の目的

令和5年度に学校図書館の活性化をめざしてリニューアルに取り組んだモデル校7校の計画と実践報告をまとめました。学校の特性や地域性を活かし、モデル校が独自の取組で学校図書館の活性化に挑んだ記録です。

モデル校には普通科高校だけでなく、専門高校、総合学科高校、定時制高校など、さまざまな校種の学校が参加しました。今後他の県立学校においても、この実践集を参考に取り組を考えて実践し、図書館の活性化を進めていってください。モデル校の各校が策定したリニューアル計画に基づき、自校の特色に応じた多種多様な実践例には、どんな学校にも参考にできるものがあると考えています。

また県民のみなさまには、この実践集を通じて、三重県の学校図書館がさまざまな取組を実施していることを知っていただくとともに、学校図書館の役割や活動に関心をもつきっかけになればと考えています。

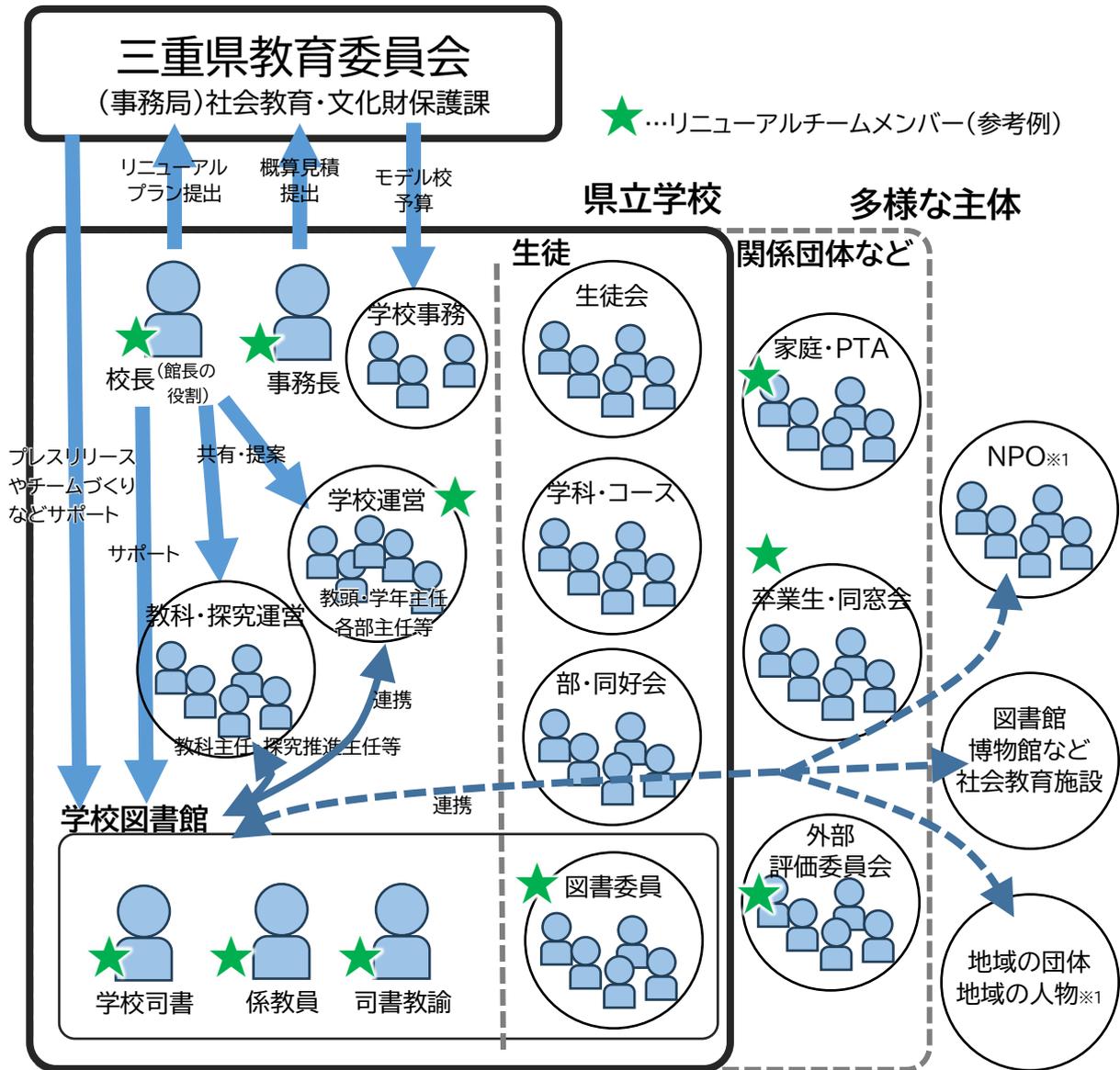
(2) モデル校決定からリニューアルプラン提出までの流れ

令和5年度は以下の流れでモデル校を決定し、各校でリニューアルプランを策定しました。

時期	社会教育・文化財保護課の動き	学校の動き
2023 1/26	校長会にて説明	
2/24	三重県学校図書館協議会 司書部研修会にて説明	
3/8	モデル校募集通知送付・募集開始	校内で次年度のモデル校申込について協議
4/11	モデル校募集通知再送	校内新体制であらためて協議 エントリーシート記入
5/12	三重県学校図書館協議会司書部総会にてリマインド	
5/15	募集〆切	エントリーシート提出
5/24	モデル校選定審査会開催 5校に絞らず、エントリー7校すべてをモデル校に選定	
6/2	モデル校に通知	校内リニューアルチーム検討 リニューアルプラン/概算見積作成開始
6月	モデル校7校と社会教育・文化財保護課で週1回の meet 会議で情報共有開始	
8/31		リニューアルプラン/概算見積提出

(3)モデル校の推進体制例

推進体制の例を以下に示します。なお、体制の形や運営方法は各校それぞれの方針に基づき決定することになります。



※1 (参考)令和5年度における多様な主体との連携事例は、伊賀白鳳高校図書館がNPO法人伊賀の伝丸、鳥羽高校図書館が江戸川乱歩館などで。詳しくは(4)令和5年度モデル校事例を参照ください。

(4) 令和5年度モデル校事例

事例1	いなべ総合学園高等学校
-----	-------------



学校の概要	[生徒数]831人 [職員数]124人 [学科・コース]総合学科
-------	--

1. リニューアル計画

めざす姿

- ・「本」を通じて交流・発信の機会を作り、多様な生徒一人ひとりの実情に応じた図書館活動を提供することで、誰もが安心できる場所、多様な生徒の居場所の一つに図書館が位置付けられるようにする。
- ・生徒のための図書館として、幅広い読書体験の提供や学習活動の支援、情報収集・選択・活用能力の育成をする。
- ・一人でも多くの生徒が来館し、資料に出会える環境の整備に努める。

現状と課題

[現状]

- ・入学者選抜方法を工夫し、多様な生徒を受け入れている。それらの多様な生徒一人ひとりが、それぞれの興味・関心や目標に沿って自己実現を図ることができる力を育成できるようにキャリア教育や探究活動に取り組んでいる。
- ・2年次以降は個別の時間割による学習に取り組むことが多くなり、クラス単位での活動が非常に少ないことから、生徒同士、あるいは生徒と教員の関係が希薄になる傾向がある。
- ・主体的に活動したい生徒、自ら踏み出すことはできないが、機会があれば参加してみたい生徒、自分の考えを発信したいと考えている生徒等、多様な生徒のニーズがありそれらに対応できる様々な機会を設けることが大切である。
- ・週1回以上読書をする習慣がある生徒は約3割と想定より多かった。
- ・読書習慣が身につけていない生徒の内、約半数が本を読みたいと思っている。

[課題]

- ・生徒の自己実現を図るために多様な資料を収集し、探求活動をすすめることで変化する生徒のニーズを教員と連携して把握して対応する必要がある。
- ・図書館を人と交流できる居場所としてイベント等を企画することによって生徒に選択肢を与

える必要がある。

・読書習慣は身につけていないが読書に意欲がある生徒に、本を手にする機会が必要である。

主な取組内容

① 生徒・教職員・地域家庭へのアンケート調査

Googleフォームで全生徒・教職員・保護者・学校関係者評価委員にアンケート実施

「学校図書館の利用頻度について」などの設問を設置し、「貸出冊数」と「貸出利用率(現学年で1回以上本を借りた生徒の割合)」とは別に、図書館への関心度や課題を測定する。

② 哲学対話・車座トーク・ビブリオバトル等を実施し生徒同士の交流の機会をつくる。

ファシリテーターを招聘して哲学対話を実施

図書館2階を使用する。11月の学校行事人権LHRにからめて行う。

「車座トーク」を企画

地域の方が話し手となり、それぞれの専門的なキャリアの経験について気軽にやりとりし本を紹介してもらう「車座トーク」や、アンケートの「本・マンガ以外の好きなもの・関心があること」などの設問から特定の話題について興味がある生徒同士をつなげる「車座トーク」等を企画する。

「ビブリオバトル体験会」と称して少人数で複数回実施

③ 生徒同士が本の感想や体験を楽しく共有できる仕組み・環境構築

Web上に「いな総生の推し本」データベースを構築

株式会社カーリルの学校図書館の本のWeb検索機能が無償提供するプロジェクトに参加。貸出期限スリップに「本の感想コメント」欄を作成し生徒などの感想を収集・公開する。書籍情報に加え、いな総生の本の感想を誰でも読むことができる。また、学校をこえて本の感想をやりとりできるようにする。

本の無人駅(本の感想を直接本に挟んで展示)を作成し貸出を促進

リニューアルチーム

[学校]校長、教頭、事務長、総務部主任、総務部(図書館担当)

○生徒からの要望

- | | |
|-------------|--|
| ・施設に関する内容 | 専用の自習学習スペース、ソファなど快適な環境整備、2階の利用、OA機器やネット検索PC等の環境、空調、新コーナー |
| ・サービスに関する内容 | 開館時間の延長・追加、おしらせ、授業で利用、OPACおすすめ |

の本
<ul style="list-style-type: none"> 資料に関する内容 まんが、本、雑誌、メディア化
○先生からの要望
<ul style="list-style-type: none"> 2Fスペースでも机椅子があって勉強できたり、本を読めるとよい。 図書館の2階の有効活用。 特設コーナーなどからの情報提供、情報発信。つかまれるような知的好奇心がかき立てられる情報。
【家庭】 PTA役員
○保護者からの要望
<ul style="list-style-type: none"> 集中して勉強ができるスペースやリラックスできる椅子。 開館時間の延長・保護者への貸出。 交流の場所になるようなカフェや行きたくなるようなイベント。 「朝の読書」などといった読書の時間を確保。 本の紹介コーナーの設置 など。
【地域】 学校関係者評価委員
○学校関係者評価委員からの要望
<ul style="list-style-type: none"> 員弁高校時代の卒業生ですが その頃はお洒落でもなくただ本があるだけだったので落ち着けて一人時間も過ごせる清潔感のある空間がいいと思います。 本の注目BEST 10 コーナーを設置してなかったら設置してほしい。

学校長のマネジメント
<ul style="list-style-type: none"> この事業に応募する目的やねらいを学校司書、総務部職員と協議した。 その内容について、校長から職員全体に説明を行い、学校全体で取り組むことを確認した。 様々なイベントの企画について校長も参画し、校内の活動を進める。 <p>以上のように、組織として当該事業に取り組み、学校図書館の活性化を学校の魅力の一つとすることができるよう、取組を進めたい。</p>

評価指標		
項 目	令和 4 年度現状値	令和5年度目標値
・貸出利用者率	23.7%	25%

項 目	令和 4 年度現状値	令和5年度目標値
(独自指標) ・年間貸出冊数(生徒・教職員・一般合わせて) (図書館システム統計)	4,778 冊	5,000冊
(独自指標) ・現学年で学校図書館に年1回以上来館したことがある生徒の割合(アンケート)	(現在 63.7%)	75%
(独自指標) ・図書館機能満足度(有効回答のみ)のプラスの割合(アンケート)	(現在 66.1%)	75%
(独自指標) ・読書習慣が身につけていない生徒の割合を減らす。	(現在 47.3%)	35%

2. 実践報告

取組内容と所感

① アンケート調査・リニューアルプラン作成

取組内容⇒7月に生徒、教職員、保護者・地域に対してアンケートを行いました。アンケート配付については校長先生や教頭先生にアドバイスいただき総務部全体で協力して行いました。アンケート結果からリニューアルプランを策定しました。このプランはアンケート結果やリニューアルチームの意見を記載し、より具体的な内容を盛り込みました。このタイミングで概算見積も提出できるとより良かったのですが、概算見積は12月になりました。

所感⇒生徒、教職員、保護者・地域の方の全てのアンケート回答に共通して座席等スペース拡充の希望があったため、長期間使用していない2階の活用に向けて取り組みました。情報発信等は既存の図書館だよりやHPに加え、蔵書検索サービス「カーリル」を使用するとともに、本の感想を共有できる掲示板を図書館前廊下に設置しました。来年度以降もアンケート調査や図書委員活動を通じ、生徒の読書活動の促進に取り組みます。

② 2階リニューアル

取組内容⇒ニーズが高い「2階の利用(座席スペース増加)」のためハード面をリニューアルしました。エアコンや階段等の設備調査後、掃除担当の生徒と協力して片付け・整理・掃除をしました。10月12日から利用が可能になりました。クーラーの一部不良により6月～9月末まで利用できないという課題に対し、事務と協力し1月31日に間仕切りカーテンの入札が完了しました。2月下旬以降に工事を予定しています。また、保護



リニューアル前の図書館2階

者の方からアドバイスいただき西日対策に遮熱フィルムを貼る予定です。今後は2階の利用を促進するため案内を作成する予定です。



座席スペースを増加した様子

所感⇒「総合的な探求の時間」でよく活用する3年次の利用が多く見受けられました。昨年度に比べ授業後に図書館で調べ学習を継続して行うグループも増えました。2階を利用できるようになり、今まで1階で孤独に自主学習をしていた生徒たちの間に交流が生まれ2階でお互い励ましあいながら課題に取り組む姿を見てリニューアルを行って良かったと感じました。今後は広くなったスペースを学習・情報センターとして生徒の発表を助けるツールを整備し、読書センターとして読書推進のために企画や設備整備等に取り組みます。

③ いなてつ ーいな総で哲学対話ー



哲学対話の様子

取組内容⇒哲学対話とは、集まった人が問いについてあーだこーだ話したり、聞いて、考えたりするイベントです。コミュニティーボールを使用して参加者が協力して考えを深めました。10月12日 1回目テーマ「押し」ってどういう存在？(学内のみ)
11月8日 2回目テーマ「ヤバい」ってどういうこと？(家庭・地域の方も参加)

所感⇒モデル校のオンライン会議による情報共有や、哲学対話を実際に実施している又は興味関心がある方から情報を得て「カフェフィロ」に進行役を依頼しました。進行役の山本和則さんと校長と共にオンラインで打ち合わせ後、メールで内容の詳細を詰めていきました。依頼費用等について事務と相談し、社会教育・文化財保護課にプレスリリースを依頼しました。2回目は学内のみならず保護者や学校関係者評価委員会の方や学外の方に参加いただき、多様な考えが行き交うイベントになりました。イベント終了後、生徒たちはもっと話したい様子だったので今後実施する場合は時間設定等を工夫する必要があると思いました。

④ ビブリアバトル体験会や車座トークなどの図書館イベント

取組内容⇒読書が好きな生徒をターゲットにしたビブリアバトル体験会、読書に興味関心が少ない生徒をターゲットにした車座トークを実施しました。ビブリアバトルは現在月1回のペースで継続的に実施しています。車座トークで過去に開催したテーマは「関ジャニ∞」「ヨルシカ」「SnowMan」です。



ビブリオバトル体験会の様子

ビブリオバトル体験会に参加した放送部で図書委員はビブリオバトルの楽しさをより多くの生徒に知ってほしいとお昼の放送で呼かけたり実際の様子を撮影して短いドキュメント映像にして部内で発表していたりしていました。車座トークはイベントが終了しても参加した生徒たちが交流していたり、普段図書館で見かけない生徒が「参加しなかった」や「〇〇のテーマでやってほしい」と話している姿を目にしたので、企画が狙い通りに実施できたと考えます。今後も実施していこうと思います。

所感⇒ビブリオバトル体験会はいなてつに参加する前に図書館イベントに参加することに生徒が慣れるため、また本をおすすめしてほしいという生徒は多かったので発信・交流する機会を作るために実施しました。車座トークは、読書に関心が少ない生徒も学年をこえて、趣味が同じ人と話すことができる機会を作るために実施しました。



車座トークの様子



投票する生徒の様子

した。投票の結果小選挙区選挙で『ブルーロック』が当選し、比例代表者選挙で集英社が当選したため『Dr.STONE』を図書館に加えました。雑誌の罷免はありませんでした。

所感⇒選定、候補者の応援メッセージ、受付、開票、振り返りまで図書委員が主体となって意欲的に活動しました。意見やアイデアが多く議論になることもありました

⑤ 模擬選挙

取組内容⇒マンガの作品名を「候補者」に、出版社を「政党」に、雑誌名を「裁判官」に見立て模擬選挙を行いました。地歴・公民科教員からアドバイスや地域の書店から漫画を貸していただいたきながら11月10日に選挙を実施し、60人参加がありました。開票作業を図書委員会で実施し、委員が図書館だよりの記事を作成して発表しま



開票する図書委員の様子

が委員長と副委員長が上手にファシリテーションする姿が見受けられました。このイベントを通してより図書委員の積極性が増し、委員どうしのコミュニケーションがより活発になりました。また、新聞記事を見た卒業生や教職員が図書館へ来館するなどよい企画になったと思います。

⑥ 推し本データベース

取組内容➡本の感想を web 上で共有できるサイト『推し本データベース』に津高校図書館と連携して公開し、web サイトに自校の感想を追加して閲覧検索ができるようになります。この準備のため6月に貸出期限のスリップに本の感想が書けるようデザインを変更しました。(株)カーリルと井戸本司書と感想タグの整理についてや web サイトのデザインについて調整しました。3月に「津高+いな総の生徒の推し本」として web サイトを公開する予定です。

所感➡6 月以降、廊下の掲示板の前を通りかかる生徒が感想を見て本を借りにきました。また、今まで図書館に来館しなかったけれどこれを見て本に興味を持った生徒や、感想を毎週確認している生徒もいました。また掲示板の前で本について話している姿もみられました。今後生徒の交流や読書のきっかけになるよう努めます。

事業総額500千円

事業全体の成果と課題

【リニューアルの成果】

- ・今まで 1 年生の来館は少なかったがリニューアルを実施してから増加した。来館者の裾野がひろがり、生徒に居場所として利用されるようになったと感じている。
- ・座席の増加といった学内の生徒・教職員のニーズだけではなく、保護者や地域のニーズを収集できた。またアンケートを実施することで利用者ニーズを図書館運営に具体的に反映しました。2階の整備をすることで、空間を有効利用し生徒のニーズにこたえることができた。
- ・模擬選挙やいなてつが新聞やケーブルテレビに取り上げられるなど、いなべ総合学園の魅力を発信することができた。
- ・学年を越えて生徒同士のつながりや交流について車座トークの参加者から好評を得ることができた。
- ・利用者の満足度が 98%に上昇した。(7 月アンケート結果 66%)

【リニューアルの課題】

- ・今年度の活動で好意的に受け止められた活動を(生徒数減少で教員数減や学校運営費減が予想される)今後も継続できるか。具体的には来年度以降、費用面において哲学対話のファシリテーターを定期的に招聘することができるか。
- ・2階に加え1階も故障した空調設備を修理または代替手段を用意できるか。
- ・今後もイベントや設備環境に関する項目を含むアンケートを継続して実施できるか。

【リニューアルチームの成果】

- ・いなべ市の地域人材や保護者、卒業生とつながることができた。
- ・生徒図書委員会が主体的に活動することができた。
- ・分掌内だけではなく分掌外の教職員とも協力して活動することができた。

[リニューアルチームの課題]

- ・リニューアルによって生まれたつながりを今後どのように生かし関係を維持することができるか。
- ・イベント等を定期開催する場合、図書館サービスの質を維持できるか。

学校長からの展望

- ・今年度、実施した「哲学対話」等の取組を定例化することによって、本を読んだり借りたりするということ以外の図書館の価値に対する生徒の認知度とそれらのイベント等に参加することに対する安心感を高め、生徒のよりよい居場所としていく。
- ・そのために課題となる経費等の運営上の問題について、PTA等と連携して克服に努める。
- ・図書館で実施するイベント等を新たな結節点の一つとして、地域の人々や保護者と更に連携を深める。
- ・これらの取組を通して、学校図書館が学校にとって貴重な財産であるだけでなく、地域にとっても重要な存在であることを周知していく。

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

- ・図書館イベントの定期開催。(教科・分掌)と(図書館・図書委員会)が連携して効果的にイベントを実施する。
- ・2階の1部分が未開放のため整備開放。より利用されるよう案内・掲示を行う。
- ・イベント参加人数を増やすためのマーケティングと広告
- ・いなてつ(哲学対話)をいなべ総合学園高校の魅力の一つになるよう育成・計画・継続実施していく。

事例2	津高等学校
-----	-------



学校の概要	[生徒数]952人 [職員数]89人 [学科・コース]普通科
-------	--------------------------------------

1. リニューアル計画

めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士が本の感想や体験を楽しく共有できる図書館 他の生徒が紹介した本を読むことで、生徒が、様々な分野への関心を高め、津高が生徒に身に付けさせたい「創造性(新たな価値を創り出す力)」と「国際性(多様性の受容力、グローバルな視野と志)」を育てています。 ・「自主・自律」や「高い志」を育む一助となる本と人の情報が集まる図書館 140年の歴史ある津高から輩出された様々な分野で活躍する卒業生に話をしてもらうことで、本を読むだけでは伝わりにくい「自主・自律(自分が何をしたいか、どうありたいかを自分自身で決めて行動する)」、「高い志(実現可能性に固執せず、大きな夢や社会貢献に向かって挑戦する)」、自身のキャリアについて生徒が考えるきっかけとなっています。 ・生徒が地域のことについて関心を高め、学び、発信することができる図書館 津市をはじめとした地域の歴史や文化、偉人の情報を図書館が集め、興味が広まるようなコーナーを設置し、地元の情報を編集する講座(例:郷土の偉人についてのトークライブ、ウィキペディアの編集、地図編集とグループワーク、安濃川の調査など)を開催することで、生徒が自身の生きる地域について関心を持つようになっています。
------	--

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は読んだ本の感想を積極的に提出してくれている。館内掲示や図書館だよりで紹介した本を借りに来る生徒もいる。 ➡どんな本を選んでよいかわからない生徒には参考となる情報の提供が必要である。 ・津高生は本を読む力があり、本を読むことが嫌いではない。本に接する機会の不足と、本を読むことに対する優先順位を上げることができないだけ。 ➡生徒同士が本について語り合う機会を設けることで、本を読むことに対する興味と、優先順位の引き上げを図る必要がある。 ・県外の大学に進学する生徒も多く、三重県や津市のことについて興味・関心を持つことができないままに県外で活躍する生徒も多い。
-------	---

- ➡今年1年生は中学時代、入学から卒業までの3年間、新型コロナウイルス感染症の影響で行動制限下にあったため、今まで以上に経験不足の可能性はある。
- ・失敗を恐れず挑戦するといっても失敗したら駄目という意識が強く失敗し慣れていない。
 - ➡「本気の大人」に自身のキャリアを語ってもらうことで、挑戦することと失敗から学ぶことの大事さを知り、「自主・自律」、「高い志」を育む必要がある。
- ・津高という140年以上の歴史のある学校に在学しながら、その歴史の価値を在学中に感じる機会が同窓会主催の行事などに限られている。
 - ➡卒業生をはじめとした様々な偉人、地域に関する講座を開催するなどし、地域や卒業生に関する興味・関心を育む必要がある。

主な取組内容

① 生徒への図書館関心度アンケート調査

Googleフォームで全生徒にアンケート実施

「現学年で津高図書館に1回以上来館したことがある(授業は除く)」などの設問を設置し、津高マネジメントシートで目標としている「貸出冊数」と「貸出利用率(現学年で1回以上本を借りた生徒の割合)」とは別に、図書館への関心度や課題を測定する。

② 生徒同士が本の感想や体験を楽しく共有できる仕組み・環境構築

Web上に「津高生の推し本」データベースを構築

現在、津高図書館の本のWeb検索機能が無償提供してもらっている株式会社カーリルに依頼し「津高生の推し本データベース」を構築し、津高生の本の感想を誰でも読むことができ、「いいね」を付けることもできるように機能追加を行う。また、他校の生徒の感想も登録できるようにし、学校を超えて本の感想をやりとりできるようにする。

館内に「黒板本棚」を設置

帝京大学では、本を薦め、読み合わせ、評し合う「発展的循環型の読書」を「共読」と名付け、「共読ライブラリー」を2012年から構築している。それを参考に、生徒が感想を記入できる黒板本棚を設置する。一部の黒板本棚は県立伊賀白鳳高校工芸部の生徒に制作を依頼する。

③ 「自主・自律」や「高い志」を育む一助となる情報提供

車座トークをバージョンアップし開催

卒業生等が話し手となり、それぞれの専門的なキャリアの経験について気軽にやりとりし、本を紹介してもらう「車座トーク」について、卒業生に限らず、より多種多様な人を「話し手」として招聘する。

④ 地域の人や文化、自然について関心を高め、学び考えることができる展示や講座の開催

地域の偉人の展示と講座の開催

谷川士清の会、石水博物館(卒業生で文化人の川喜田半泥子)、三重県立美術館(本校の前身である津中学校で美術教員を務めた画家 藤島武二、鹿子木孟郎)などと連携した展示を行うとともに、施設の見学会や学芸員による講座を開催する。

津高周辺に関するフィールドワークやグループワークの開催
中庭の昆虫を調べる探究講座や津高周辺の地形図を使ったグループワークを開催する。

リニューアルチーム

[学校]企画委員会(校長、教頭、事務長、総務主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事、「探究」推進部主任、図書部主任、1学年主任、2学年主任、3学年主任、職員代表)

- 何を讀んだらいいかわからない生徒に、他の生徒の感想や評価を見るなどを通して、ヒントを与えるなどのサポートをして欲しい(2学年主任)
- 文系の生徒が自身のキャリアを考え、想像する機会が少ない(1学年担任)
- 失敗したら駄目という意識が強く、挑戦の意識が低いかもしれない(1学年)

[家庭]PTA会長及びPTA副会長

- 読書後、内容について話したい気持ちになる。読み終わった人へちょっとしたコメントが残せたら面白いのではないか。ノートでもミニ手紙でも。条件は「読書後に見る」。いろんな人が読む図書館の本…という利点を活かした楽しい仕掛けがあると面白い。(遠山副会長)
- 津高生は本を読む力があり、本を読むことが嫌いではない。本と接する機会がないだけ。興味を持つきっかけを作って欲しい。特に運動部系の生徒へのアプローチをして欲しい。例えば、1・2学年上の先輩のスポーツ選手を呼んだ図書館イベントなど。ハンドボール部は先輩を呼ぶイベントをしているようだ。(後久会長)

[地域]津市立新町小校長、新町地区自治会連合会会長、谷川士清の会

- 140年以上の歴史を有する津高ならではのライブラリー化、アーカイブ化をし、情報発信する。例えば「先輩研究」「先輩を訪ねる」のようなサークル活動が図書館から生まれれば在校生に自負と高い志、社会貢献の意識が育まれ、同志性も深まる。
- 校舎の近くに谷川士清旧宅が存在することに鑑みた地域の偉人の紹介。谷川士清翁関連の書籍コーナー、DVD等の配置をしていただきたい。
- 読書感想の共有化プランは、感想を気軽に投稿でき、読書会やビブリオバトルに発展させることもでき、「受け身」でない積極的な読書体験を重ねることができる。また、自分自身の言葉で語ることにより、考えを深化させることができる。
- ChatGPTの弊害が取り沙汰されているが、使い方次第では有効なので、放課後講座でChatGPT講座を開催し、情報リテラシーを身に付けさせてはどうか。
- 公共図書館の持つデータベースを有効活用させてもらう方向での取り決めなどをし、より生徒の探究する活動のサポートをして欲しい。

学校長のマネジメント

- 令和4年度は、「青空図書館」や「車座トーク」、「文化講演会」、「図書館ライブ」等の行事のほか、入れてほしい本のジャンルで「模擬選挙」をするなど時事に関する体験も取り入れることにより、たくさんの来館動機を創出し、その取組や成果について発信してきました。このことは学校関係者評価委員会でも評価され、これからも魅力の発信を強化していくことが

重要との意見もいただいています。

○令和5年度は、授業での図書館活用のほか、生徒の主体的な活動や探究的な学びの材料や機会をこれまで数多く提供してきたことを踏まえて、多くの生徒が読書に親しみ、図書館を有効に活用すること、そのための工夫や仕組みづくりが他校の図書館にも波及するものとなるよう、図書館運営の一層の活性化を図っていきたいと考えています。

評価指標		
項目	令和4年度現状値	令和5年度目標値
・貸出利用率	48.3%	50.0%
(独自指標) ・年間貸出冊数(生徒・教職員合わせて) ※令和5年度津高マネジメントシートより	8,886冊	9,000冊
(独自指標) ・現学年で津高図書館に1回以上来館したことがある生徒の割合	(未測定)	65.0%

2. 実践報告

取組内容と所感
<p>① 生徒への図書館関心度アンケート調査</p> <p>取組内容⇒Google フォームで全生徒にアンケート実施</p> <p>「現学年で津高図書館に1回以上来館したことがある(授業は除く)」などの設問を設置し、図書館への関心度や課題を測定した。</p> <p>所感⇒回答数について:アンケート開始当初は生徒の回答数を増やすために、教室掲示、図書館だよりでの案内、図書委員からの呼びかけを行ったが、思ったほど回答は増えなかったため、最終的に担任の先生に協力をお願いしたことにより、過半数以上の回答を得ることができた。</p> <p>来館状況について:想定以上に「図書館に行ったことがある」割合が多く、この割合に関して大きく改善を目指すのは難しいことがわかった。図書館に行く理由 1 位が「自習」であるので、「自習」に来た生徒が本に関心を持つ工夫をし、「行く理由:本を借りる」割合を増加させる取組が必要であると考え。</p> <p>また、図書館に行かない理由 2 位「部活や宿題で忙しい」に関しては、様々な生徒のニーズに答えることで図書館に行く優先順位を上げる取組が必要と考える。</p> <p>② 生徒同士が本の感想や体験を楽しく共有できる仕組み・環境構築</p> <p>取組内容⇒Webページ上に「津高生の推し本」データベースを構築</p>



推し本データベース

所感→本校「探究」推進部と連携することができた取組である。「探究」推進部からの提案で、夏休みの課題「Book Review」(新書を読んでレビューを提出する)を、データベースへの登録・公開を見越してGoogleフォームによる提出に変更した。また、コメントに「いいね」をつけられるようにしてはどうかという機能提案をもらい、実現することができた。図書館の仕組みを探究活動で活用する一つの例になったと考えている。

公開後の生徒の反響の中には、「推しコメント」を自身のスマホに表示して「この

本を読みたい」と質問する生徒がおり、生徒のコメントが本への興味を高めていることがわかる。

他の学校図書館の「推し本」への関心も想定以上に高い。今年度末にいなべ総合学園高等学校の加入が見込まれ、さらに複数の学校が令和6年度の参加に関心を持っている。将来的には三重県の高校生の本の感想を一元化して表示できるページとなり、生徒、教員が活用できる仕組みとしたい。

取組内容→館内に「黒板本棚」を設置



生徒がコメントを記入できる黒板本棚を設置した。一部の黒板本棚は三重県立伊賀白鳳高等学校 工芸部に制作を依頼し、2023/12/19 放課後に贈呈式を開催し、伊賀白鳳高等学校 工芸部と本校図書委員の交流が実現した。

また、津高図書館でも図書委員と黒板本棚を自作した。

黒板本棚贈呈式の様子

所感→伊賀白鳳高等学校に依頼した黒板本棚は、制作者である生徒の工夫が満載で、図書委員の評価も高く、本校校長も出席した贈呈式は大変盛り上がった。このような形で図書館をハブにして他の学校の部活と交流することは意義が大きい。

図書委員と一緒に作った自作黒板本棚の作業では、友人を連れてきてくれた図書委員もあり、こうした手作業について関心が高いことがわかった。図書館リニューアル



黒板本棚を自作する様子

について「生徒自ら作る」要素があるのは重要かもしれない。

③ 「自主・自律」や「高い志」を育む一助となる情報提供

取組内容⇒車座トークをバージョンアップし開催



藤田さん車座トーク

卒業生等が話し手となり、それぞれの専門的なキャリアの経験について気軽にやりとりし、本を紹介してもらう「車座トーク」について、卒業生に限らず、より多様な人を「話し手」として招聘した。

・2023/7/24(月) 図書館図鑑活用講座「校庭の虫を探求しよう!!」大島康宏さん(三重県総合博物館 昆虫担当学芸員) 5人参加

・2023/9/13(水) 車座トーク Vol.12「私たちが世界のためにできること」藤田恵里さん(独立行政法人国際協力機構(JICA)企画部総合企画課) 17人参加

・2023/11/14(火) 図書館地形図活用講座「地図から声を聴く方法」青木和人さん(鈴鹿大学短期大学部 生活コミュニケーション学科 准教授) 10人参加



茨木さん記念講演

・2023/12/12(火) 記念講演会「週刊少年ジャンプ元編集長のここだけの話」茨木政彦さん(集英社 GAMES 常務取締役役ほか) 130人参加

・2024/1/23(火) 図書館スポーツ講座「スポーツを科学する」仰木裕嗣さん

(慶應義塾大学 政策・メディア研究科 教授) 70人参加



仰木さんスポーツ講座

所感⇒今までの車座トークよりも多様な講師を招聘した結果、今まで図書館に足が向かなかった生徒が図書館に入るきっかけを作ることができたと考えている。スポーツ講座では、その後スポーツの本を借りていく生徒の姿が見られた。今後はこうして足を向けてくれた生徒が継続的に図書館を活用するよう、ニーズを掴んだ取組を行うことが必要である。

講師の話終了後に講師に個別に話を聞きに行く生徒がいた。また届いた生徒の感想に「私はもともと、国際経験に興味がありましたが、今回のお話で自分が未来に向けて何が必要なのかを知ることができました」などがあり、生徒の知的好奇心や自身のキャリア形成意欲を刺激できたと考えている。

また、スポーツ講座は校内の教員との新しい連携が生まれるきっかけとなった。スポーツ講座講師の仰木氏は、「津高生に話を聞かせたい人」という形で教員に情報提供を依頼して見つけた講師である。申込に関しては運動部顧問の教員が積極的に生徒に働きかけ、当初の40人の定員をはるかに超えた参加者数を実現できた。

事業総額826千円

事業全体の成果と課題

[リニューアルの成果]

- ・今年度は、130人規模の行事を1回開催、70人規模の行事を3回開催と、過去数年の中で図書館行事への参加者数が最も多い年度となった。今回の事業で県外の方を講師に招くことが可能となったことが規模を拡大できた要因のひとつと考えている。
- ・大規模行事の参加者の重複を調べたところ、大規模図書館行事に複数回参加した生徒の割合は40%を切っていた。これは、行事により参加する生徒が都度異なっていたということを意味し、様々な生徒を図書館に呼び込むという意味で一定の成果を上げたと考えている。

[リニューアルの課題]

- ・2月の時点では津高マネジメントシートに掲げている「年間貸出冊数(生徒・教職員合わせて)」「貸出利用者率(現学年で1回以上本を借りた生徒の割合)」については、今年度の達成目標は元より、昨年度の数値を下回る可能性が高くなっている。図書館に足を運ぶ機会が増え、図書館が親しみやすくなった状況を、本を借りるという行為に反映させていく必要がある。

[リニューアルチームの成果]

- ・学校内においては、情報共有・意見募集を通じ、校内でのつながりが強化された。「探究」推進部だけでなく、社会科教員や運動部顧問など、今まで図書館が連携できていなかったところと意見交換し、企画を実施できたことは今後の授業・部活動における図書館活用につながると考えている。
- ・学校外においては、PTA役員や近隣の文化施設から意見やアイデアをもらえたことが、図書館の新しい取組を生み出すきっかけとなった。PTA会長の「スポーツを熱心にする生徒に働きかけを」という要望はスポーツ講座として実現し、大きな反響を呼び、次年度への要望も出ている。

[リニューアルチームの課題]

- ・地域の偉人についての講座の開催など、行えなかった取組もある。それらは次年度に開催を検討する必要がある。

学校長からの展望

- ・学校の図書館は生徒が「本と出会える」機能を持っています。新聞やインターネットから発信される情報とは違って、来館して実際に手に取ることにより、思いもよらない本との出会いが実現することもあります。今回のリニューアルで「推し本データベース」が加わったことで、高校生の目線からの感想にたくさん出会えることになり、このシステムが県内各校とつながることによって、地域に関係なく、豊かな「本との出会い」ができるようになることを期待し

ます。

- ・学校の図書館は生徒が「思いやアイデアと出会える」機能を持っています。本を通じての出会いだけでなく、本を読んだ人の感想、またその本を相手に勧めたい思い、そしてそこからアイデアが湧き上がってくることもあります。中には文字化されていないものもあるでしょう。今回のリニューアルで「黒板本棚」というアイデアを取り入れました。手書きだからこそ伝わる思いやアイデアに本との出会いが加わると、学習や探究活動だけでなく、創造性や課題解決においても、力を発揮すると考えます。「黒板本棚」を制作していただいた伊賀白鳳高校との交流の深まりも期待します。
- ・学校の図書館は生徒が「人と出会える」機能を持っています。今回の事業で普段は話を聴くことができない人を招聘してトークをしていただく機会を持ったり、普段の学習活動ではカバーできない内容の講座を開いたりすることができました。その中で講師として来館していただいた人との交流だけでなく、同じイベントや講座に興味を持って集まった生徒間の交流も広がっています。
- ・津高図書館はこれからも人との出会いや交流行事を大切に、学校図書館運営をするとともに、今回の「本を読もう！読書活動推進事業」を機に、学校図書館の「出会う」機能が県内各校の学校図書館に広がるよう成果を発信していきたいと考えています。

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

- ・黒板本棚や「津高生の推し本」が年度終わり近くに完成したため、これらが本格的に活用されるのは令和6年度となります。リニューアルした館内により多様な生徒が足を運び、本を手取るように、黒板本棚と「推し本」を活用していきます。
- ・スポーツ講座は、複数の教員から「栄養」「睡眠」など、次年度に開催して欲しいテーマや講師の情報をもらっています。このように、校内のアイデアや意見の一部が図書館に集約されるようになりつつあると捉えています。関係者の想いをサポートして実現できる津高図書館をめざしたいと思います。
- ・石水博物館からは、11月の石水博物館の展示に合わせた企画の提案をもらっています。令和5年度にできなかった「地域の偉人の展示と講座の開催」を令和6年度に開催したいと考えています。
- ・これら津高図書館の事例は、予算が必要なもの(県外から講師を招くなど)もあれば、それほど予算が必要でないもの(黒板本棚を自作する、「推し本」を公開するなど)もあります。今回の事業で得た知見を他の県立学校図書館に伝えることで、県立学校図書館それぞれが校風に合わせた独自の取組を行えるよう支えていきたいと思っています。

事例3	久居農林高等学校
-----	----------



学校の概要	[生徒数]686人 [職員数]126人 [学科・コース] 生物生産科、生物資源科、環境情報科、環境土木科、生活デザイン科
-------	---

1. リニューアル計画

めざす姿	・1人でも、グループでも、授業でも、生徒対応でも、あらゆるパターンで利用できる、居場所機能もそなえた図書館。
------	--

現状と課題	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友人関係や学業・進路など不安を抱えている生徒が多い。 ・読書が苦手な生徒は、図書館の利用にもハードルが高いと感じている。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路や課題、興味に応じた資料を広く収集する必要がある。 ・教室を離れた居場所として誰でも入りやすく居心地の良い図書館をめざす。
-------	---

主な取組内容	<p>① 図書館プロジェクト×3年リビングコース</p> <p>理想の図書館案</p> <p>ソフト面・ハード面の要望をもとに、本校の図書館運営に関する規定に留意した上で、実現可能なものを取り入れる。(例)マンガリクエストアンケート、BGMを流す</p> <p>レイアウト考案</p> <p>班ごとに館内レイアウトと置く家具を考えた。その中で代表チームを決定して、実際館内のスペースを測り様々な利用者目線に立って検討した結果、現在のレイアウトのまま代表チームが選んだ家具を購入する予定。リラクゼーションスペースと1人席のスペースをリニューアルする。</p>
--------	--

② 図書館カフェ

3年食生活コースが焼菓子2種類を提供。「ボードゲームスペースSANTAS」のスタッフを招き、色んなボードゲームを体験する。学年クラスを超えた交流の機会を作る。

「理想の図書館案」のなかで「ボードゲームを置く」という要望があった。図書館を利用しない層への呼び込みになるだけでなく、コミュニケーションツールとしての効果を期待して、「ボードゲームスペースSANTAS」のスタッフのおすすめや図書館カフェでの反応をふまえて数種類購入する。図書館という場所への親しみから、本・読書への興味につなげたい。

③生徒への図書館アンケートの実施

リニューアル後の図書館の印象・居心地のよさの変化について設問を作る。図書館の総合的な満足度と要望は次年度以降も継続的に調査し、図書館運営の参考にした。

リニューアルチーム

[学校]校長、教頭、事務長、コースの教諭、教務主任、学校司書

[家庭]保護者

○PTA役員会、保護者会でアンケートを依頼した。

[地域]津市NPO法人「ボードゲームスペース SANTAS」

○図書館カフェへの出張依頼、学校図書館向けのボードゲームを紹介してもらう。

学校長のマネジメント

本校は、農業と家庭の学科を設置する専門高校である。中でも、生活デザイン科のリビングコースは、住環境に関する基礎・基本を学び、居心地の良い空間づくりについて考えたり、住宅デザインソフトを使って理想の住宅をデザインするなど、住宅模型の制作等を行っている。また、農業学科の環境保全コースでは、自然環境の保全や森林資源活用について学び、ブックスタンドや椅子・机などを木材加工実習で制作している。これらのコースで学ぶ生徒が、日頃の学習成果を活かしてアイデアを出し合い、実際に本校の図書館を自分たちの居心地の良い空間にリニューアルし、一人でもグループでも使いやすい図書館にすることで、授業や放課後での利活用を推進したい。また、リニューアル後は、食品コースや食生活コースの生徒が作ったクッキーやマドレーヌといった焼き菓子を提供する「図書館カフェ」も開催したい。この事業指定を受け図書館をリニューアルすることで、各コースの生徒が様々なテーマに基づく探究学習を進めたり、放課後の安心できる居場所づくりをするだけでなく、リニューアルそのものに生徒自らが日頃の学習の成果を生かして取り組むことで、課題解決に向け主体的に考え行動できる力も育成したい。



リラクゼーションスペースの様子

家具の納品の遅れは、生徒に家具の会社を指定しなかったため見積を依頼した業者の取扱商品以外のものが多かったこともあるが、各所へ進捗状況や期限の確認が不十分だったことが要因である。

ボードゲームを置いたことで、これまで利用のなかった生徒の来館があり、ボードゲームを使った授業が行われた。利用者のマナー指導が課題である。

生徒アンケートで「図書館リニューアルをしてから、図書館の居心地が良くなった・行きやすくなった」と回答した生徒の割合は 54%だった。一方、「図書館リニューアルをしても、図書館には行かない(興味がない)」と回答した生徒の割合は 19%だった。図書館に興味のない生徒にも、イベントや授業利用で来館する機会を作りたい。

② 図書館カフェ

取組内容➡学年やクラスを超えた交流の機会をつくる図書館をめざし、図書館カフェを実施した。

12月13日実施。21名参加。

カフェタイム…飲み物、食生活コース3年生製作の焼菓子2種類を提供する。

ボードゲーム体験…NPO法人「SANTAS」のスタッフの進行で、様々なボードゲームを体験する。学年クラスを超えた交流の機会を作る。



図書館カフェの様子



ボードゲーム体験会の様子

所感➡食生活コースが製作したマドレーヌとフィナンシェは、参加者に好評だった。

図書委員の有志が司会、ボードゲームの説明、飲み物等の提供など活躍した。

参加者へのアンケートで、「図書館イベントをすることで、図書館に行きやすくなった」と回答した生徒の割合は 90%だった。また、「色んな学年の人と関わることができて楽しかった」という感想が多く見られ、目標は達成したといえる。

3月5日「初めてのクトゥルフ神話 TRPG 体験会」の実施につながった。

事業総額600千円

事業全体の成果と課題

[リニューアルの成果]

・生徒アンケートの結果から、「理想の図書館案」をもとに実施した取組に好意的な意見が多かった。

[リニューアルの課題]

・生徒から次年度も図書館カフェ・ボードゲーム体験の希望があったが、継続できるか。

[リニューアルチームの成果]

・コースと連携し、本校の魅力を生かすことができた。

・図書館カフェが図書委員の活躍の場になった。

・「SANTAS」のスタッフも高校生の感性や知識から得られるものが多く、学校・地域機関互に学びがあった。

[リニューアルチームの課題]

・保護者の意見を少数しか得られなかった。

・リニューアルチーム以外の教員に図書館カフェなどの取組を周知できなかった。図書館を広く利用されるために生徒・教員ともに働きかけが必要である。

学校長からの展望

今回、モデル校の指定を受けたことで、生徒自らが図書館のリニューアルに向け意見を出し、その意見が採用されることでソファが新しくなったり、床でくつろげる置き畳のスペースもできるなどといった体験をした生徒がいた。このように自分が意見を出すことで変わることもあるという経験は、今後の人生を歩むうえでも貴重な体験になったし、自己肯定感の向上にもつながった。また、ボードゲームを置いたことにより、今まで図書館を利用したことがなかった生徒が図書館を利用するようになり、図書館利用についての幅が広がった。図書館カフェについても、生徒自らが作った焼菓子友達に食べてもらい、図書館でくつろいでもらうという、新たな試みもできた。今後も、これら取組は継続し、1人でも、グループでも、授業でも、放課後でも、生徒でも、教員でも、あらゆるパターンで利用できる居心地の良い場所になるよう図書館運営をしてほしい。そして、一人でも多くの生徒が、読書に親しむ環境づくりを朝読も含め継続したい。

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

・生徒、教員へ図書館利用を働きかける。

・読書、図書館に興味を持てるイベントの継続。

事例4	伊勢工業高等学校
-----	----------



学校の概要	[生徒数]470名 [職員数]83名 [学科・コース]機械科・建築科・電気科
-------	--

1. リニューアル計画

めざす姿	<p>「人とアイデアの集まる図書館」をめざします</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生工務店などの取組において、チームシンキングとプロジェクト発表の場を提供することで、「ひとづくり」「ものづくり」に積極的に関わります。
------	---

現状と課題	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めるとともに、情報発信の強化も図っている。 ・生徒の基礎学力の向上や産業人としての専門的な能力の定着を図るとともに表現力・コミュニケーション能力の育成にも努めている。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「高校生工務店」など、地域と連携した取組は成果をあげているが、今後は一部の生徒だけではなく取組を全校生徒へ広げていく必要がある。 ・企業からは、異世代間のコミュニケーション能力、基礎学力、より高度な資格取得などが求められており、これらのニーズに応えていく必要がある。 ・変化の激しい社会や技術の急速な進歩に対応するための「課題解決力」や「学びに向かう力の育成」が必要になっている。
-------	---

主な取組内容	<p>楽しくディスカッションしたり、アイデアを練ったりすることができる、心地よいコミュニケーションスペースをつくる</p> <p>発表の場(取り組むプロジェクトの紹介やその成果を発表する場)を提供する</p>
--------	--

以上に基づき、①から③の取組を行なう。

①現在の「参考図書コーナー」付近に高校生工務店の活動拠点でもあるコミュニケーションスペースをつくる

アイデアタワー(モニュメント)を設置する。

このモニュメントは伝言板のように活用できる。アイデア募集・回答などを掲示するほか、現在進行中のプロジェクトの紹介ができるようにすることで、ちょっとした発表の場としても利用できるようにする。

自由スペースを確保する。

書架の一部を整理して、高校生工務店やその他の取組でつくった作品の展示ができるようにする。また、生徒たちが使う参考資料を気軽に置くことができる場所として開放する。

生徒の自由な発想をうながす什器・物品を用意する。

キャスター付きの机・立ち座りしやすいスツール・自由に使えるホワイトボード・生徒用パソコンをこのスペースに設置する。

ゾーン分けをする。

机・書架のレイアウト変更など、照明・サインでコミュニケーションスペースと自習・授業エリアを区切り、同時に机の配置の見直しと一部書架の配置を変更する。

②生徒等への図書館利用・意識調査を実施する

リニューアル前後で生徒対象のアンケートを実施する。

内容は読書について・図書館利用について・満足度についてなど。

リニューアル後に教職員対象のアンケートを実施する。

PTA 役員会での意見交換を実施する。

③図書館を活用した授業やイベントを行なう

高校生工務店成果発表会。

生徒だけではなく、希望する保護者や地域の方々なども含めた活動報告会を開く。

課題研究発表会、在校生と卒業生の交流会。

図書館の授業利用の1つとして声かけを行なう。

リニューアルチーム

[学校] 図書館活性化推進委員会(校長・教頭・事務長・機械科科长・建築科科长・電気科科长・建築研究部・電気研究部・総務教務部・図書担当・学校司書)

[家庭] PTA会長(図書館活性化推進委員)

[地域] 外部教育力(建築科講師・アイデアタワーの制作指導)

学校長のマネジメント

・伊勢工業高校は、地元企業から人材を求められる高校であり、「ものづくり」を通して教育活動に取り組み、変化の激しい社会を生き抜く力(課題解決力・学びに向かう力)を育成するため、昨年度より「高校生工務店」と名付けた地域連携活動に取り組んでいます。本校生徒が、主体的、対話的な学びを通じて深い学びを実現させ、変化の激しい社会を生き抜く力を身につけるため、以下の取組を推進します。

①プロジェクトに係る生徒たちが「活動の打ち合わせ」を行うだけでなく、「専門書などの読書活動を通じた情報及び、知識の収集」や、「ものづくりに係るアイデアの創出」など、課題解決に係る『インプットの拠点としてアイデアの集まる図書館』

②現在取り組んでいるプロジェクトの紹介や、ものづくりの成果を展示、発表する場である『アウトプットの拠点として人の集まる図書館』

以上①, ②をきっかけとして、本校生徒だけでなく、様々な人々が集まる図書館となるように環境整備と、図書館活動に努めます。

評価指標

項目	令和4年度現状値	令和5年度目標値
・貸出利用率	31.3%	50.0%
(独自指標) ・貸出冊数(生徒1人あたり)	3.2冊	5.0冊以上
(独自指標) ・来館者数	数値なし	平均値を算出

2. 実践報告

取組内容と所感

① 高校生工務店の活動拠点でもあるコミュニケーションスペースをつくる

取組内容⇒「アイデアタワー」(掲示板)の制作 8月～1月(消耗品費・報償費 約10万円)
照明器具の設置等 10月(消耗品費約15万円) ホワイトボード・会議テーブル・昇降スツールの購入 12月(備品購入費・消耗品費約50万円) ゾーン分け 取組中(消耗品費 約5万円)

所感⇒生徒による「図書館改造計画案」をもとにしてスペースづくりを行なった。ゾーン分けの手法のひとつとして制作の始まった「アイデアタワー」だが、最終的に今回のリニューアルのシンボルになったところが大きな成果だった。スペースづくり全般にわたり工業高校らしさを活かした取組ができた。



アイデアタワーの制作

② 生徒等への図書館利用・意識調査を実施する

取組内容⇒生徒にアンケート調査 7月・2月 職員にアンケート調査 3月 PTA 役員会での意見交換 6月

所感⇒7月実施の生徒アンケートは紙での回答と Google フォームでの回答、両方できるようにした。回答率は約7割。学年末は確実に回収しなかったため紙で実施した。要望の中には具体的な図書のリクエストも含まれていたため対応した。PTA 役員会での意見交換は、直接図書館を見てもらう機会となり有効だった。

③ 図書館を活用した授業やイベントを行なう

取組内容⇒「伊工図書館リニューアルオープンセレモニー」1月23日(火) 参加者約50名

司書および生徒による事業の取組報告と生徒による工業高校での学びや地域との連携に関する実践発表会を実施。

所感⇒セレモニーは学校関係者評価委員や PTA 役員など、大人も交えたイベントとなり、実践発表する生徒にとってよい経験になったと考えている。このイベントにあたり伊勢市の記者会へも情報提供を行なった。

授業利用については、モニターを使ってみようとか、こんな授業ができるかもしれないとか、「図書館でやってみたいこと」について話をすることが多くなった。今後、様々なかたちで図書館を利用してもらえるのではと期待している。



図書館で実践発表する生徒の様子

事業総額802千円

事業全体の成果と課題

[リニューアルの成果]

・館内のレイアウトを変更している途中から「あ、なんか変わった！」と声をかけてくる生徒もおり、事業に取り組む前と比較すると生徒とのコミュニケーションが増えた。

・職員会議でリニューアル関連の提案をする機会が複数回あり、イベント前には管理職からも声掛けがあった。図書館から職員への発信源は図書館だよりが中心だったので、直接伝える・伝わることで、より図書館に関心を持ってもらえるようになった。

[リニューアルの課題]

・3つの学科にバランスよくこの事業に参加してもらいたいと考えていたが、難しかった。
・部活動や「課題研究」の授業のなかで、ものづくりに取り組んでもらうことが多々あった。大会を控えていたり、急に授業に組み込んでもらうことになったりと、無理をとおす場面もあったと思う。スケジュール確認と調整をもっと細やかにすべきだった。

[リニューアルチームの成果]

・校内のいろいろな立場の職員がメンバーになったことで、視点の異なるアイデアやアドバイスをもらうことができた。
・PTA 会長がチームに入っていたので、イベント参加の呼びかけなどがスムーズにできた。

[リニューアルチームの課題]

・科長を中心としたメンバーだったので、各種会議があるなか、チーム(本校では図書館活性化推進委員会)の会議日程を調整するのが難しかった。また、全体で集まることができない分、個別にあたることも多かったので図書館の考えていることを正確に伝えるのが大変だった。
・「地域」とどのように関わるかというところが、今まで地域連携を単独で行っていなかった図書館にとっては難しかった。

学校長からの展望

あくまでも生徒が主役(生徒間のコミュニケーションの場と、地域との交流の場)

- 1 生徒、職員が授業や学校行事で積極的な活用
- 2 校内、学校間連携の場
: 課題研究の成果発表中の、優秀な作品の発表会
南勢地区図書委員生徒の交流会
高校生工務店で連携した他校との発表・反省会
- 3 地域の方々と本校生徒や職員との交流の場
: 高校生工務店と地域住民との相談及び成果発表の場
- 4 地域への開放
: 幼児を集めた読み聞かせ会
- 5 PTA 役員会、学校関係者評価委員会の開催
※図書館利用のマナーも学ばせる

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

- ・教室から遠いこの図書館へいかに生徒たちを呼び込むか、ということが課題のひとつでした。今回の事業を通じて、生徒だけでなく教職員にも改めて図書館という場所を意識してもらうことができたことは、大きな収穫でした。いよいよ来年度からは本格的に「アイデアタワー」を中心としたコミュニケーションスペースの活用がスタートします。科の枠を越えた交流の場として、また、次のアイデアが生まれる場として、「人とアイデアの集まる図書館」を実現したいです。
- ・また、今まで授業利用というと調べものや読書での利用が中心だったのですが、今後は学習したことを発表する場所としても図書館を活用してもらうことで、生徒たちのコミュニケーション能力を高めるための一助になればと考えています。
- ・1月23日のイベントでは、図書委員も「図書委員会活動について」というタイトルで実践報告を行いました。委員たちは普段のカウンター当番だけではなく、ビブリオバトルや文化祭などのイベント、蔵書点検といった裏方の仕事も頑張っているのですが、多くの人に自分たちの活動を紹介することができて励みになったと思います。「委員会楽しかった」という声は我々の励みにもなりました。委員とともに楽しみながら図書館をつくっていきたいと思います。

事例5	鳥羽高等学校
-----	--------



学校の概要	[生徒数]148人 [職員数]55人 [学科・コース]総合学科
-------	---------------------------------------

1. リニューアル計画

めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが学校に誇りを持てる質の高い活動がおこなえる学校図書館 「魅力的な授業やイベントの舞台といえば図書館」と生徒が誇りを感じられる価値のある活動や図書館づくりをおこなう。 ・地域の特性を生かした観光教育や地域学習が可能な学校図書館 観光地であることの強みを生かした授業を支えるために地域学習の支援に力を入れる。 ・主体的・対話的で深い学びが実現できる授業実践を創る学校図書館 一人1台パソコンの活用、基礎学力の定着、新しい時代に必要な資質能力の育成につながる授業創りを積極的に支援する。
------	--

現状と課題	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定の生徒の居場所として機能している面が強い。 ・読書や図書館の利用に苦手意識のある生徒が多い。 ・少人数の学校であることのデメリットを意識する生徒が多い。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用する生徒層の裾野を広げるための取組(授業利用の拡充や図書館イベントの充実など)が必要である。 ・読書や図書館の利用の方法をわかりやすく伝える授業やイベントをおこない、生徒の心理的なハードルを下げる必要がある。 ・少人数の学校であることのメリットを図書館リニューアルを通じて生徒に享受させる必要がある。
-------	---

主な取組内容

① 生徒・保護者へのアンケート調査

Google フォームで全生徒にアンケート実施(6月・12月)。

シールアンケートを図書館イベント、保護者会中に生徒・保護者に実施(7月・10月)。

リニューアルの事前と事後にリニューアル内容の希望と事後評価についてのアンケートを生徒および保護者等を対象におこなう。

② アンケート結果を反映した空間への図書館リニューアルの実行

アンケートの希望(レイアウト案、家具の色)をもとに実際に館内の配置を変更する。

③ 地域資源を存分に活用した図書館イベントの実施

今年、地域とつながりの深い作家・江戸川乱歩が作家デビュー100周年を迎えるのにちなみ、江戸川乱歩をテーマにした図書館イベントを企画・実施する。

④ ICT の活用を通じて学校図書館でおこなう授業の質を向上

学校図書館を利用した授業においては、生徒の一人1台パソコンの活用(Google アプリ、新聞データベースの活用など)を積極的におこなう。また図書や新聞など紙ベースの資料との使い分けを指導するなど、ハイブリッドの学びを支援する。

リニューアルチーム

[学校]図書委員会(教務主任・図書係・総合学科係・司書・教頭・校長)

[家庭]保護者等

[地域]鳥羽市立図書館(中村さとみ:鳥羽市教育委員会事務局 図書館管理係主査)、皇學館大学(岡野裕行:皇學館大学文学部国文学科准教授、ビブリオバトルサークル「ビブロフィリア」)、MARUDOT INC.(杉浦 徹:MARUDOT INC. 代表・理学療法士)、Ciao(宮浜悦子:『Ciao』オーナー)、江戸川乱歩館(岩崎織江:鳥羽商工会議所)

学校長のマネジメント

事業を受けるための学校体制として、学校司書が中心となり、教務総務部会を経て図書委員会で計画立案、運営委員会及び職員会議で報告し、教職員全体に周知する。また学校マネジメントシートの中期的な重要目標に学校図書館機能の拡充を示し、図書館のリニューアル、地域との連携による本校の特色ある教育活動の推進を学校全体で図り、生徒がより近く図書館を感じることで、高校生活を充実させ、進路実現へ向けて必要な力を身につける。この取組の結果、本校生徒の行動力、思考力、コミュニケーション能力、創造力、表現力、自己肯定力、自己管理能力の7つの力を向上させることが、目指すところである。

評価指標		
項目	令和4年度現状値	令和5年度目標値
・貸出利用者率	50.3%	65.0%
(独自指標) ・教科での授業利用時間数 ※令和5年度学校マネジメントシートより	116 時間	100 時間以上
(独自指標) ・図書館イベントをすることで図書館に行きやすくなったと回答した生徒の割合※図書館利用者アンケートで測定	(未測定)	70.0%
(独自指標) ・図書館リニューアルをしてから図書館の居心地が良くなったと回答した生徒の割合 ※図書館利用者アンケートで測定	(未測定)	70.0%

2. 実践報告

取組内容と所感
<p>①生徒・保護者等へのアンケート調査</p> <p>取組内容➡リニューアルの事前と事後にリニューアル内容の希望と事後評価についてのアンケートを生徒および保護者等を対象におこなう</p> <p><リニューアル前(希望調査)アンケート></p> <p>6月9日～13日 生徒アンケート(グーグルフォームに回答入力)</p> <p>7月5日 生徒・教職員アンケート(イベント開催中にシール貼付にて実施)</p> <p>7月18日～20日 保護者等アンケート(保護者会期間にシール貼付にて実施)</p> <p><リニューアル後(評価)アンケート></p> <p>10月2日～6日 保護者等アンケート(授業公開期間にシール貼付にて実施)</p> <p>11月13日 生徒アンケート(グーグルフォームに回答入力)</p> <p>12月18日 生徒・教職員アンケート(イベント開催中にシール貼付にて実施)</p> <p>12月19日～21日 保護者等アンケート(保護者会期間にシール貼付にて実施)</p> <p>所感➡希望調査アンケートでは、図書館リニューアルの内容(図書館内のレイアウトやルール変更)、カーテンや家具の色、図書館イベントの時期を調査し、その結果を反映したリニューアルおよびイベント案を企画することができた。その結果としての評価アンケートでは、図書館リニューアルによる変化は生徒・教職員・保護者等からおおむね好意的に受け止めら</p>

れている結果が出ていた(図書館リニューアルをしてから図書館の居心地がよくなったと回答した生徒の割合 77%)。

②アンケート結果を反映した空間への図書館リニューアルの実行

取組内容➡アンケートの希望(レイアウト案、家具の色)をもとに実際に館内の配置を変更する

9月6日 ソファスペースにベンチベッド1台と yogiboMAX2台を搬入、飲食スペースにラーニングテーブル6台を搬入

10月23日 カーテン入れ替え完了



リニューアル後のソファスペース

所感➡文芸部と図書委員を中心に有志の生徒の協力で家具の搬入と館内整備をした。リニューアル後は、今まで来館しなかった層の生徒が立ち寄るようになったり、校外の方に鳥羽高校を紹介する際「鳥羽高校の見どころ」としてリニューアルしたスペースについて生徒がとりあげたりするようになった。



飲食スペースの様子

③地域資源を存分に活用した図書館イベントの実施

取組内容➡今年、地域とつながりの深い作家・江戸川乱歩が作家デビュー100周年を迎えるのにちなみ、江戸川乱歩をテーマにした図書館イベントを企画・実施する

7月5日 「乱歩カフェ」(校内)

8月25日 「江戸川乱歩ビブリアバトル&フィールドワーク」(校内および校外)

11月9日 「乱歩図書館へようこそ」(校内)

12月1日～28日 鳥羽市立図書館で「乱歩図書館へようこそ」の内容を展示(校外)

所感➡地域人材(理学療法士、大学生、他校司書)や地域機関(商工会議所、店舗、公共図書館)と協力したイベントの企画運営をおこなうことができた。イベントテーマは鳥羽市にゆかりの深い江戸川乱歩が今年作家デビュー百周年にあたることにちなんだ。イベントを積極的におこなうことで、生徒の図書館満足度や利用のしやすさにつなが



乱歩カフェの様子

った(図書館イベントに1つ以上参加し満足したと回答した生徒の割合66%、図書館イベントをすることで図書館に行きやすくなったと回答した生徒の割合53%)

④ICTの活用を通じて学校図書館でおこなう授業の質を向上

取組内容➡学校図書館を利用した授業においては、生徒の一人1台パソコンの活用(Google アプリ、新聞データベースの活用など)を積極的におこなう。また図書や新聞など紙ベースの資料との使い分けを指導するなど、ハイブリッドの学びを支援する

4月25日～7月5日 2学年(保健体育科) Google ドキュメントでレポート作成

6月5日 1学年(国語科) BYOD 図書館ガイダンス

7月6日～11日 1～3学年(国語科) 読書感想文ガイダンス(Google スライド使用)

9月22日～11月17日 3学年(スポーツ健康系列) Google スライド作成

10月12日 2学年(観光ビジネス系列) 愛知県の高校との交流会(Zoom使用)

所感➡調べる活動がある授業に関して、本とインターネット、新聞データベースをどのように使い分ければ良いかについてガイダンスをおこなった。一人一台パソコンから図書館クラスルームへアクセスし蔵書検索や予約、アンケート回答がおこなえるように伝え、活用につなげた。図書館の大型ディスプレイはガイダンスや Zoom、授業時の動画視聴などに有効活用し、図書館での授業の質向上に努めた。その影響として、昨年度よりも図書館でおこなわれる授業の幅が広がり、校外との交流をおこなう授業にも頻繁に利用されるようになった。

事業総額950千円

事業全体の成果と課題

[リニューアルの成果]

- ・利用する生徒層の裾野を広げることができた
- ・鳥羽高校の魅力を高めることができた
- ・生徒が校外に鳥羽高校を紹介する際「見どころ」として図書館を意識するようになった

[リニューアルの課題]

- ・今年度の活動で好意的に受け止められた活動(アンケート、地域とつながったイベント、館内整備など)を(クラス数減で学校運営費が減額される中で)継続できるか

[リニューアルチームの成果]

- ・鳥羽高校ならではの活動をスムーズにおこなうために校内組織としての図書委員会がうまく機能した
- ・鳥羽市の地域人材、地域機関とうまくつながり、質の高い図書館イベントを企画運営することができた

[リニューアルチームの課題]

- ・クラス数減で教員定数も減る中で、校内組織としての図書委員会の継続ができるか
- ・鳥羽市の地域人材、地域機関との協力体制を今後どのように維持するか

学校長からの展望

この事業により、図書館施設の居心地の改善と計画的なイベントの企画・実施により、アンケート結果でもわかるように、生徒の図書館利用率は向上したことを実感している。また、乱歩カフェの実施、ビブリオバトル、フィールドワーク、授業での利用、地域(かもめ食堂、小学校)との交流の場所提供などが実施されることで、生徒や教諭が図書館をより身近に感じられ、深い学びの行える場所として確立されてきた。今後も引き続き、本校の学びの場として、居心地の良い身近な存在であってほしい。

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

- ・地域人材・地域機関の協力でおこなう質の高い図書館イベントの継続・定着
- ・館内整備や図書館イベントの希望調査も生徒の図書館アンケートに含めて継続・実施
- ・学校図書館における授業について ICT の活用を継続・推進

事例6	伊賀白鳳高等学校
-----	----------



学校の概要	[生徒数]696人 [職員数]138人 [学科・コース]機械科・電子機械科・建築デザイン科・生物資源科・ フードシステム科・経営科・ヒューマンサービス科
-------	---

1. リニューアル計画

めざす姿

- ・伊賀白鳳高校図書館は伊賀白鳳高校の「交流」・「創造」・「自己実現」の場になる
- 交流 生徒が授業や部活動などをとおして自己表現し、交流する場。
- 創造 ものづくりのヒントがある場、教員の多様な授業を支援する場。
- 自己実現 地域と連携し、生きる力を磨く場。

現状と課題

- ・生徒の自主的な図書館利用が少ない
 - ➡図書館がさまざまな目的で活用できることを周知することで、生徒が柔軟な発想で図書館を使い、交流や自己実現ができるような取組を行う。
 - ➡生徒アンケートをもとにした経営科生徒の「図書館のハードルを下げる」提案を取り入れることで、生徒が図書館をプラスのイメージで認識できるように取り組む。
 - ➡学力など学校生活において困り感のある生徒に寄り添える場の提供に取り組む。
- ・新規の授業利用が少ない
 - ➡新採研修や職員版図書館だより「おとなの図書館だより」、デスクネッツ等を通じて、教職員に授業利用事例を共有したり、司書によるガイダンスなど授業を直接支援したりすることで、教職員が気軽に図書館を利活用できるように取り組む。

主な取組内容

- ① 生徒、教職員等へのアンケート調査実施
生徒アンケート結果をもとに経営科3年生が図書館を分析・提案。

② 机のリニューアル

机を柔軟に動かすことで、講義、ディスカッション、成果発表など多様な目的で活用できる。

【リニューアル後の活用計画】

フードシステム科・・・12/16(土) 物語に出てくるお菓子をテーマに図書館カフェ。
(学校のイベント「白鳳フェス」での催しの一部)

吹奏楽部・・・12/22(金)ミニコンサート。

演劇部・・・1月 朗読劇 or ミニ演劇発表。

③ 生徒の発想を取り入れたリニューアル

①の経営科生徒の提案を取り入れることで生徒が来たくなる図書館をつくる。

音楽のある図書館・・・昼休みと放課後に落ち着く音楽を流す。

ポイントカード&景品のある図書館・・・専門科の成果物を景品とし、読書イベントを開催する。

道のりが楽しい図書館・・・教室から遠いことを活かし、図書館までの消費カロリーや図書館でできることを掲示し、楽しく来館できるようにする。

飲食できる図書館・・・フタのある飲み物可、昼食時食事可に図書館利用規定を変更する。

④ 「アナログもデジタルも」活用できる図書館へのリニューアル

既存のサービスを周知し、生徒のものづくりや教職員の授業支援に役立つ。

ガイダンスの提供・・・本やデータベース、WEBでの調べ方、レポートの書き方など。

思考ツールの提供・・・ディスカッションやアイデアを助ける考具ガイド・考具シートの提供。

授業利用相談・・・図書館を活用した授業づくりについて協力できるメニューを提示。

⑤ 地域と連携し、生きる力を磨く場となるためのリニューアル

毎週月・金曜日の自主学習の場「マナビバ」を活用し、地域とつながるイベント等を開催。

パリスデー・・・6/8(金)、9月～ ALTと英語でコミュニケーション。

俳句の宿題やっちゃおう！・・・7/10(月)地域ボランティアから俳句のレクチャー。

伊賀市社会福祉協議会と連携。

伊賀の伝丸の日・・・9/25(月)、10/16(月)、11/20(月)、12/11(月)、1/22(月)、
2/19(月)

日本版と海外版の同じ絵本の読み比べをしたあとに、フリートーク。

リニューアルチーム

[学校]経営科3年生徒、企画委員会＋人権教育部主任＋特別支援コーディネーター

[家庭]PTA役員会

[地域]学校関係者評価委員会(※連携 ・伊賀市社会福祉協議会、伊賀の伝丸)

学校長のマネジメント

- ・生徒や教職員が多様な目的で図書館を活用するよう、さまざまな機会をとおして発信する
- ・校内外の関係各所への周知と協力依頼を行う
- ・進捗状況を把握し、必要に応じてメンバーを招集し、協議・実践を進める

評価指標

項目	令和4年度現状値	令和5年度目標値
・貸出利用者率	38.2%	40.0%
(独自指標) ・図書館に対する満足度 5月→1月 ※図書館に関するアンケート調査より	未測定	6以上70%
(独自指標) ・図書館を一度でも利用したことのある人の割合	未測定	50%

2. 実践報告

取組内容と所感

① 生徒、教職員等へのアンケート調査実施と結果にもとづく生徒による改善提案

取組内容➡ 生徒アンケート結果をもとに経営科3年生が図書館を分析・提案



経営科による図書館への提案発表の様子

6月28日(水) 2、3限目 情報処理(経営科3年) 提案発表会

所感➡まず司書から図書館の機能と役割、伊賀白鳳高校図書館はどうなりたいかを授業冒頭で説明した。経営科生徒には生徒アンケートにもとづいて図書館を分析し、図書館利用を活性化するアイデアをグループで提案してもらった。どのグループもアンケートから、読書は必要だと思うが読書をしない、あるいは図書館を利用しないことに着目し、どうしたら図書館へのハードルが下がるのか、日常的に使いたくなるのかという視点で提案してくれた。

生徒の「ほしい」が詰まったアイデアから現実的な意見まで、さまざまな提案があり、リニューアルプラン作成に活かした。

12月の教職員アンケートには、「本校の図書室の位置は、物理的に足を遠ざけているように思う」などの回答があった。図書館を近く感じてもらう工夫が今後の課題である。

② 机のリニューアルと活用

取組内容→柔軟に動かせる机に変えることで多様な目的で活用できる

12月16日(土) 図書館カフェ(フードシステム科パティシエコース3年) マンガや絵本に出てくるお菓子を図書館カフェで提供。(本校「白鳳フェス」の催しのひとつとして地域の方対象に開催)



図書館カフェの様子

12月22日(金) 吹奏楽部クリスマスミニコンサート
クリスマスメドレー、アンサンブルコンテストの演奏曲ほか

1月19日(金) 演劇部ミニ発表会 演目「バレンタイン恋愛攻略法」

後述のマナビバにおける「パリスデー」、「伊賀の伝丸の日」にも活用。



吹奏楽部クリスマスミニコンサート

所感→図書館カフェは「総合実習」の授業で取り組んだ。夏休みの課題で生徒それぞれがどの作品に出てくるお菓子を作るかを決め、10月からお菓子の試作や館内をカフェとしてどう使うかの話し合いなどに取り組んだ。図書館はポスター、メニュー、お菓子のネタになった本の展示、当日流す動画の作成を担当した。当日はたくさんの地域の方に来ていただき、焼き菓子販売、生カステラの焼きたて販売、カフェの3部門を生徒たちが連携しながらこなす姿を見ることができた。後日、担当教員から「図書館はカフェとしてとてもよい雰囲気だったので、定期的に生徒の実践の場として使いたい」という話がパティシエコースの教員間で出たという話を聞いた。今後も継続して連携する機会をつくりたい。

吹奏楽部、演劇部の発表会は、机をなくし、館内が演じるスペースと観客席だけの空間になり、いつもと違う図書館の雰囲気がとても新鮮だった。本番までの準備も間近で見ることができ、どういう支援があると図書館でやりやすいのかを知ることができたのは今後につな

がる。また、演者と近い位置で鑑賞できることは図書館開催の強みといえる。アンサンブルコンテストのプレ発表の場として活用してもらうなど、部活動に負担のない形が連携しやすいこともわかった。

③ 生徒の発想を取り入れたリニューアル

取組内容➡①の経営科生徒の提案を取り入れることで生徒が行きたくなる図書館をつくる。

(企画委員会、職員会議にて教職員と共有)

夏休み中 道のりが楽しい図書館 3階までの階段に図書館までの消費カロリーや図書館でできることを掲示し、楽しく来館できるようにする。

9月4日(月)～ 音楽のある図書館 昼休みと放課後にリラックスできる音楽を流す。
飲食できる図書館 フタのある飲み物可、昼食時食事可とする。

10月10日(火)～12月8日(金) ポイントカード & 景品のある図書館 読書ラリー。
各専門科の成果物を景品とした読書イベントを開催する。



道のりが楽しい図書館



飲食できる図書館

所感➡12月に再度調査した生徒アンケートには、「お昼(を食べ)に図書室に行くようになって先生と授業前に「いってらっしゃい」「行ってきます」と砕けた感じで話せてすごく好きな空間でした」「勉強しに行った時に音楽がかかっていて居心地がいいなと思った」などリニューアルに対して好意的な回答をもらえた。読書ラリーは借りた本のおすすめコメントを数行書くとスタンプがもらえる形にしたが、生徒から「コメントを書くのはハードルが高い」との意見をもらったため、来年度は内容を工夫したい。各専門科に景品を提供してもらい、提案協力の経営科を含め、すべての専門科と関わったことはとてもありがたく、この事業に取り組んだ成果であると考えている。

④ 「アナログもデジタルも」活用できる図書館へのリニューアル

取組内容➡既存のサービスを周知し、生徒のものづくりや教職員の授業支援に役立つ。

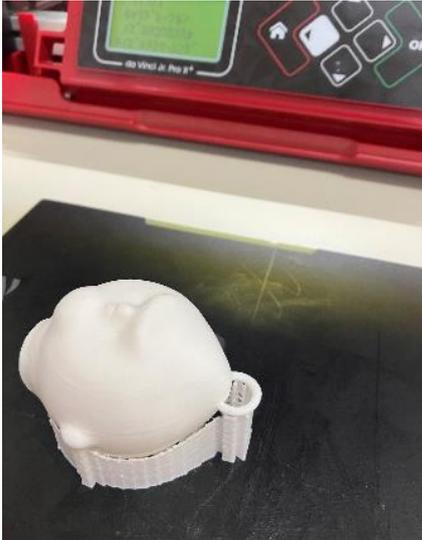
・ガイダンス・思考ツールの提供。

国語表現(3年)、コミュニケーション技術(ヒューマンサービス科生活福祉コース3年)

POPの作り方ガイダンス、本校図書館作成のワークシート「考具ガイド」「考具ツール」の提供。



POP製作作品展



3Dプリンターを設置

・3Dプリンターを活用した授業展開
美術Ⅲ(3年選択科目おもに建築デザイン科の生徒が選択)で3Dプリンターを活用した読書ラリーのノベルティ作製を図書館が依頼し、生徒が製作。

・授業利用相談

コミュニケーション技術(ヒューマンサービス科生活福祉コース3年) 大学の授業連携、POPの授業をどう進めるか。

総合実習(フードシステム科パティシエコース) 図書館カフェの授業をどうすすめるか。

所感→職員版図書館だより「おとなの図書館だより」に本校図書館の思考ツールである「考具ガイド」「考具ツール」や3Dプリンター、新聞データベースの活用などについてお知らせした。館内だけでなく、教室で教員が行う授業に対して思考ツールを提供したり、司書が教室に出張してガイダンスを行ったりすることもできた。

今回事業に参加するにあたって、図書館のリニューアルを行う際に授業と連携することを意識的に取り組んだ。今年度はカリキュラム変更などさまざまな要因で毎年継続してあった授業利用がなくなり、年間の授業利用時間がかなり減少してしまった。授業利用は生徒が本人の意思に関わらず、図書館を使う機会になるので、その後の自主的な利用や貸出に大きく影響することを痛感した。今年度、新たな連携や取組ができたので、今後につなげていきたい。



カフェレイアウト検討の様子

⑤ 地域と連携し、生きる力を磨く場となるためのリニューアル

取組内容→自主学習の場「マナビバ」を活用し、地域とつながるイベント等を開催。

6月9日(金)、9月14日(木)、10月26日(木) パリスデー(ALTとレクリエーション)

7月10日(月) 俳句の宿題やっちゃおう！
伊賀市社会福祉協議会から紹介いただいた地域ボランティアの方から俳句のレクチャー



パリスデーの様子



俳句作成の様子

9月25日(月)、10月16日(月)、11月20日(月)
12月11日(月)、1月22日(月)、2月19日(月) 伊賀の伝丸の日(NPO 法人「伊賀の伝丸」との連携)

絵本の読み比べ、世界のクリスマスなどのクイズのあと、日本語能力検定・考査対策の勉強。



伊賀伝丸の日の様子

所感⇒「パリスデー」は本校 ALT と英語科教員の協力で英語や多文化に触れることを目的に開催できた。

「俳句の宿題やっちゃおう！」は俳句が夏休み必修課題になっている1年生が参加し、参加者が芭蕉翁献詠俳句で入賞できた。伊賀市社会福祉協議会に地域の方を講師として紹介していただくなど、社協と学校の連携が可能になったことがわかったため、今後もつながっていきたい。

伊賀の伝丸との連携は、当初外国に関わる生徒が地域とつながることを目的にしていたが、結果的には日本語に不安のある生徒が教科の授業や実習で困難な現状をふまえ、担任とともに日本語の補習を行う場として試行錯誤することとなった。また、日本語能力検定を知り、検定受験に意欲を見せた生徒もあり、検定がどんな問題かを体験する機会を継続した。生徒の困り感に寄り添いつつも、参加者を集める難しさが課題となっており、生徒や教員にとっても図書館にとってもプラスになる連携を工夫する必要がある。

事業総額700千円

事業全体の成果と課題

【リニューアルの成果】

- ・利用する生徒の幅が広がった
- ・学校内外と連携した取組ができ、学校全体の活動に資することができた
- ・図書館の利用が多様になり、今後の図書館運営に幅ができた

【リニューアルの課題】

- ・生徒が来てくれるようになったが、読書など図書館資料の活用まではいかなかったため、今後の取組で工夫が必要
- ・毎年新たに取り組む担当教員単独の授業利用だけでなく、段階的かつ横断的に生徒の情報活用能力が育む工夫が必要
- ・利用するそれぞれの生徒が互いに快適に過ごすための工夫が課題

- ・図書館でのイベントにおける集客が課題
- ・連携を継続した取組にするための工夫が必要

[リニューアルチームの成果]

- ・生徒から提案を受けたことにより、生徒の声をうまく取り入れることができた
- ・職員会議等で提案したことで各専門科から協力を得られた
- ・PTA 役員や学校関係者評価委員会、連携した地域の方々から声を聞くことができ、つながることができた

[リニューアルチームの課題]

- ・外部の方との継続的な連携
- ・図書館を活用する認識を周知し、定着させるための工夫

学校長からの展望

文部科学省「学校図書館ガイドライン」に「学校図書館は、可能な限り児童生徒や教職員が最大限自由に利活用できるよう…」とあるように、単に読書を目的とした利用者数を増やすことだけを目的とせず、生徒の自由な発想を取り入れ、生徒同士や生徒と教職員がコミュニケーションを図る場として機能させたい。更に生徒の自主的な学習活動を支援する「学習センター」として、また、生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能を充実させたいと考えます。

校内のみで完結させることなく、今まで取り組んできた地域との連携を更に発展させ、「学習する場」、「発表する場」、「交流する場」として、生徒の自己実現に向けたキャリア教育につなげていきたいと考えます。

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

- ・地域や校内での連携は図書館単独で完結するのではなく、他の分掌や専門科、部活動や授業などでお互いがプラスになることを前提にした取組を継続したい。例えば、「マナビバ」の「パリスデー」では、演劇部員を対象に部活動の一環として文化によるジェスチャーの違いを学ぶ研修会を検討している。手招きやサインが国によって違うことを学び、海外の人の役をしたり、脚本を書いたりするときに役立ててもらおう目的で開催するが、部員以外の生徒も参加できる公開型の学習会にするなど、「連携」をキーワードに取り組みたい。
- ・生徒や教職員のアンケートを継続し、今後も意見を図書館運営に取り入れたい。アンケートは意見を直接聞けるだけでなく、利用者が図書館を認識することにもつながった。図書館の姿勢やサービスをお知らせするうえでも有効である。
- ・教職員のニーズを把握し、授業利用の掘り起こしをしたい。

事例7	木本高等学校
-----	--------



学校の概要	[生徒数]全日制 458 人 定時制 17 人 [職員数]全日制 56 人 定時制 13 人 [学科・コース](全日制)普通科・総合学科 (定時制)普通科
-------	---

1. リニューアル計画

めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館が生徒の学習と進路実現を支える学びの場となる ・社会に出てからも自ら情報を収集し学ぶことのできる生徒を育む図書館となる ・全日制生徒だけでなく、定時制の生徒も利用しやすい図書館となる ・地域住民への情報発信をより強化し、地域の人も利用しやすい図書館となる
------	--

現状と課題	<p>[現状]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放課後に学習のため図書館を利用する生徒が多い。 ・進路に関する資料の利用が多い。 ・読書は好きだが、読書の時間を確保できていない生徒が多い。 ・静かで落ち着いた雰囲気図書館である。 <p>[課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼休みの来館者が少ない ・進路に関連する資料の棚と他の資料の棚との導線ができていない ・授業利用がしづらい館内レイアウトである ・定時制生徒が利用できる時間が確保されていない
-------	--

主な取組内容	<p>①館内の配置換えや机等の備品の入れ替え、利用ルールの変更</p> <p>棚や機の配置を変更</p> <p>進学・就職コーナーとして別に置いている棚を新書の棚と3類の社会科学の棚の近くへ配置することで、進学・就職に向けてニュースや社会について学ぶときに生徒に関連する棚へ誘</p>
--------	--

導しやすくする。

また、授業で利用しやすいよう棚と机の配置を一部変更する。

稼働式の机や椅子を購入

授業での班活動やイベントの時に動かしやすい机と椅子に買い換える。

モニターを購入

モニターを導入し、授業でクローズドブックの画面を全体に共有したり、ビブリオバトルや講演等の進行に利用したりと、図書館での活動をより活発にできるようにする。

ミーティングスペースやリラックススペースをつくる

図書館内で利用者が用途に合わせて使い分けできるような環境をつくる。

利用ルールの変更

飲食不可というルールを一部緩和することで、昼休みの来館者数増加を目指す。

図書館外での蔵書検索・予約を可能にする

株式会社カーリルが提供する学校図書館プログラムを利用し、オンラインでの蔵書検索や貸出予約を可能にすることで貸出のハードルを下げる。

②開館時間の延長

水曜日と木曜日の週に2回、司書の勤務時間を2時間後ろにずらし、午後7時まで開館時間を延長する。水曜日と木曜日の朝 2 時間図書館サポーターを配置して、司書不在時間の業務を補う。

③定期的なイベントの開催

昼休みに生徒が楽しめるミニイベントを開催する。

○教員対抗ミニビブリオバトル

来館者数増加とともに、ビブリオバトルの周知も目指す。

○出張図書館

昼休みに渡り廊下へ図書館の本を別置・展示する。

○ボードゲーム・カードゲーム

57577、ito、カタカナナシ、ブロックス、TAGIRON、はあって言うゲーム、ニャーニャーゲーム、ウボンゴ、といった頭を使いながら楽しみ、学年を超えて交流できるゲームを図書館で行う。

放課後に本や勉強に関する講演・ワークショップを開催する。

○中日新聞「わくわく新聞講座」

生徒を対象に、新聞の読み方、新聞の構成、進路に役立つ新聞の使い方について講演してもらう。

○読書会

本を読み、さらに他者と交流できるイベントを開催。リニューアル報告を兼ねて、学校外の人も参加できるイベントとする。

④アンケート・情報発信

教職員・生徒・地域住民それぞれを対象にしたアンケートを実施

図書館への印象等の調査を行う。アンケート結果をリニューアル計画に反映させる。

案内を配布し、保護者や地域住民も本校図書館を利用できること、本校ホームページに図書館だよりを掲載していることを周知させる。

リニューアルチーム

[学校]教職員(校長・教頭・図書部・国語科・地歴公民科・事務室・その他図書館活動に関心のある教員)、生徒(図書委員)

[家庭]保護者

[地域]熊野市立図書館・学校図書館サポーター

学校長のマネジメント

・本校は令和7年度に隣の紀南高等学校と統合され、2校舎制ながら紀南地域で唯一の高等学校となる予定である。そうなれば、両校舎とも生徒の興味・関心・学力・進路希望などは、現在の2校体制に比べ、さらに多様性が増すと予想される。また、卒業後の生徒には、地域社会を支える人材だけでなく、中にはグローバルに活躍できる人材の輩出も期待できるような教育内容を持つ学校像を検討中である。

・地域全体から集まる生徒の多様な状況や多様なニーズに応える学校として、その一翼を担える図書館づくりをめざし、本事業の基本理念を踏まえ、事業予算を有効活用しながら、特に以下のことについて進捗管理及び指導・助言を行う。

- ①リニューアルチームでのアイデアを基に、生徒がもっと行きたくなる図書館づくりに向けた環境整備やきっかけ作りを行う。
- ②学校図書館サポーターの導入や学校司書等の勤務時間設定の工夫により、全日制だけでなく定時制の生徒にとっても利用しやすい開館時間のあり方を研究する。
- ③イベント開催、生徒・保護者・地域等への情報発信、地元図書館との連携・協力などを適切かつ効果的に進める。

評価指標

項目	令和4年度現状値	令和5年度目標値
・貸出利用者率	28.1%	30.0%
(独自指標) ・1日の来館者数の平均値	13.3人	20人

2.実践報告

取組内容と所感

①館内の配置換えや机等の備品の入れ替え、利用ルールの変更

取組内容→図書の閲覧、個人学習、授業利用など、様々な用途にあわせた使い方ができるよう館内のレイアウトを変更し、机などの備品を購入した。また、利用の増加を目指し、飲食ルールを緩和したり館外での予約を可能にしたりした。

6月1日 カーリル使用開始

6月19日 閲覧用机お譲り案内

7月1日 飲食可ルール開始

7月27日 概算見積もり提出、書架の配置換え(教職員)

8月2日 閲覧用機の運び出し(生徒・教職員)

8月3日 閲覧用機の引き取り(県のリサイクルセンター)

8月7日 閲覧用機の搬入・組み立て(購入業者)

10月20日 ディ스플레이設置(教職員)



リニューアル前の図書館の様子



リニューアル後の図書館の様子

所感→計画作成当初8月に全ての備品を購入する予定であったが、10万円以上の備品を購入するには、入札期間を考慮し最低でも1か月ほど時間が必要であることが分かり、購入時期をいくつかずらすことになった。机を6人掛けから4人掛けに変更したことで個人や小グループでの利用が増え、来館者数が増えた。また、授業利用も活動的なものが増えた。独立していた学習参考書のコーナーを、新書や社会・教育関係の本棚の近くへ配置したことにより、関連する本をあわせて利用していく利用者が増えた。今後も、利用者の意識の有無に関わらず必要な資料へ導ける環境をつくっていきたい。

②開館時間の延長

取組内容→定時制生徒が図書館を利用できる環境を整えるため、冬季休業を除く水曜日と木曜日の開館時間を通常16時55分までのところ19時まで延長。延長日には司書のいない時間を補填するため、学校図書館サポーターを配置した。

6月中旬 学校図書館サポーター募集開始

7月4日 学校図書館サポーター任用通知

7月9日～3月28日 学校図書館サポーター勤務(冬季休業を除く水・木曜日)

各月末 学校図書館サポーター勤務実践報告書の提出

所感→学校図書館サポーターの勤務時間は、司書の退勤時間から定時制職員の勤務終了時間(16:55～21:20)が望ましいが、適正な人材の確保・予算・防犯面を考慮し、司書の勤務時間を後ろにずらし(10:30～19:00)、その空いた時間にサポーターの勤務時間を当てはめる対応となった。司書の勤務時間は、定時制への対応をする事務職員の勤務時間を参考にした。

定時制生徒の利用が目的だったが、結果的には退校時間まで勉強をしたい全日制生徒の利用がほとんどだった。定時制生徒の利用のためには下校時間(21:20)までの開館が必要だということがわかったが、予算面で難しいのが現状である。

全日制生徒からは来年度も続けてほしいという意見があったため、自身が勤務している間は継続したい。ただ、職員によって対応の可否が分かれる環境は望ましくないため、学校へは追加職員の配置を求めていく。

③定期的なイベントの開催

取組内容→毎年開催しているイベントのほかに、教員対抗ミニビブリオバトル・新聞講座・ボードゲームの3つのイベントを開催した。また、生徒・教職員に投票をしてもらい、図書館へ購入するボードゲームを決定した。

6月14～21日 教員対抗ミニビブリオバトル

10月27日 中日新聞わくわく新聞講座

12月19日 図書館イベント「ボードゲーム」

1月29日～2月2日 ボードゲーム投票

3月01日 ボードゲーム使用開始



わくわく新聞講座の様子



ボードゲーム体験の様子

所感→月に1回イベントを開催することを目標にしていたが、通常業務と外部講師を呼ぶイベント準備の平行は負担が大きかったことがわかった。教職員からもらった意見に小規模イベントの案がいくつかあったため、来年度以降はそれを実践し、定期的にイベントを開催していきたい。教員・生徒ともに反響が大きかったのは「教員対抗ミニビブリオバトル」だった。イベント開催時の短期間ではあるが、来館者数が大幅に上がりビブリオバトルの周知にも大きく貢献した。

④アンケート・情報発信

取組内容⇒教職員・生徒・地域に向けて Google フォームを利用し図書館に関するアンケートを実施。リニューアルの参考や図書館に関する意識調査に用いた。また、図書館だよりや図書館活動を学校ホームページに掲載し、情報を発信。熊野市立図書館との交流も行った。

4月19～24日 教職員(全日・定時)アンケート実施

6月23～27日 生徒アンケート実施

6月26日 学校ホームページに一般利用者向けの図書館の利用案内を掲載

7月18～20日 保護者会を利用し保護者アンケート実施

7月18～8月31日 熊野市立図書館で木本高校図書館の紹介チラシを配布

9月30日 文化祭参加者へ図書館アンケート実施

11月15日 図書委員の市立図書館訪問

2月1日～29日 市立図書館でのPOP展示

所感⇒アンケートの回答から、生徒・教職員がこちらが思っている以上に図書館に関心を持っていることがわかった。地域、家庭へのアンケートはアプローチが足りず、数件の回答しかなかった。多くの回答を求めるのであれば、保護者会やPTA役員会などの機会に、管理職から案内をする必要があると感じた。熊野市立図書館との連携は、計画時には学校図書館サポーター探しと小規模な連携の協力を依頼しリニューアルチームのメンバーとなっていたが、図書委員会活動、館長との意見交流、プレスリリースの提案など、予定より多くの交流や助言をいただくことができた。



熊野市立図書館へのPOP展示

事業総額944千円

事業全体の成果と課題

[リニューアルの成果]

- ・1日の来館者数、貸出利用者率を増やすことができた
- ・施設、設備面で利用者の様々な要望に応えられる環境を整えることができた

[リニューアルの課題]

- ・開館時間延長を今後継続することができるか
- ・利用者の興味・関心を引くイベントを開催することができるか

[リニューアルチームの成果]

- ・司書ひとりでは実行に移せなかった企画をチームの協力体制が整っていることで実行することができた
- ・地域の図書館との連携をとることができた

[リニューアルチームの課題]

- ・学校長が主となり、校内組織としてチームを組むという体制づくりの難しさ
- ・学校図書館サポーターの雇用を継続することができるか

学校長からの展望

本校は、地域全体から集まる生徒の多様な状況やニーズに応えられる学校をめざしており、その点で図書館も重要な役割を果たすことが期待されている。そこで、本校図書館では、今年度1年間、本事業を活用して、リニューアルチームでの検討を重ねながら、「生徒がもっと行きたくなる図書館づくり」に取り組んできた。

今後も本校では、それらの取組を通して得られた多くの経験や成果を活かして、本校図書館が、純粋に読書に親しむ場であり続けることを基本にしながら、主体的な学び、個に応じた学び、協働的な学びの場としての役割も果たし、なおかつ生徒、教職員、地域の方々等の交流の場としても活用されることで、学力向上や豊かな心の育成、研究・研修を推進するとともに、生涯学習の推進にも寄与していきたいと考える。

来年度以降に向けて(司書の取組方針)

- ・開館時間延長の継続。生徒から要望が多かった月曜日を延長日に変更する。また、定時制の授業も考慮し延長日を設定する。
- ・図書館イベントの継続。特に生徒の反応が大きかった教員対抗ビブリオバトルの恒例化と、年度末に購入したボードゲームを使った企画を行う。
- ・近隣図書館との連携。図書委員会の展示企画を恒例化していく。

(5) 令和5年度モデル校報道まとめ

掲載日/報道日	校名	媒体	記事名/コーナー名	新聞名/番組名	掲載面
2023/3/19	事業	テレビ	県政だよりみえ 3月号:リポーター:奥村 莉子(三重テレビアナウンサー) https://www.youtube.com/watch?v=O3CVD0k0HE	県政だよりみえ	
2023/6/29	伊賀 白鳳	テレビ	i-cityニュース	i-cityニュース	
2023/7/3	伊賀 白鳳	新聞	理想の学校図書館私たちが 伊賀白鳳高 で計画発表会 https://www.yomiuri.co.jp/local/mie/news/20230701-OYTNT50220/	読売新聞社	27面 (地域)
2023/7/5	伊賀 白鳳	新聞	わたしなら校内図書館こうリニューア ル! カフェ併設し会話したい 伊賀白鳳 高3年生が発表会	中日新聞社	12面 (伊賀版)
2023/7/6	鳥羽	新聞	鳥羽高校で「乱歩カフェ」作家デビュー 100周年 つながり解説や読み聞かせ https://mainichi.jp/articles/20230706/ddl/k24/040/088000c	毎日新聞	21面 (三重版)
2023/7/8	鳥羽	新聞	地元ゆかり「乱歩」を知る 鳥羽高校で 「カフェ」開く https://www.chunichi.co.jp/article/724863	中日新聞	18面 (伊勢志摩 版)
2023/7/12	鳥羽	テレビ	鳥羽高に「乱歩カフェ」校内で「乱歩カ フェ」開始	ZTV いせトピ	
2023/7/12	伊賀 白鳳	テレビ	i-cityニュース	i-cityニュース	
2023/7/13	伊賀 白鳳	新聞	俳句のコツ学びリズムよく実作 伊賀白 鳳高1年生	読売新聞社	28面 (伊賀)
2023/7/27	津	新聞	虫の探究面白いね 津高で講座 校庭で 採集、図鑑で調査	中日新聞	14面 (津市民版)
2023/8/25	鳥羽	テレビ	三重県出身 江戸川乱歩の好きな作品の 魅力伝える https://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20230825/3000031379.html	NHK ニュース (東海3県)	
2023/8/25	鳥羽	テレビ	ビブリオバトル江戸川乱歩の好きな作品 の魅力伝える ゆかりの鳥羽市の高校生 に	NHK まるっと! みえ	
2023/8/27	鳥羽	新聞	乱歩作品でビブリオバトル 鳥羽高 水 産高司書の河野さんが優勝	中日新聞	15面 (三重総合)
2023/9/16	津	新聞	国際協力の本質、津高生に JICA 職員 が講演 https://www.chunichi.co.jp/article/770386	中日新聞	20面 (津市民版)
2023/10/16	いな べ	テレビ	2023年10月16日(月)放送号 ■い なべ総合学園高校 哲学対話 https://www.youtube.com/watch?v=tjoKXqvHR8E&t=1s	株式会社 シー・ ティー・ワイ/株 式会社ケーブル ネット鈴鹿	
2023/10/31	木本	新聞	生徒ら 読み方のコツ学ぶ 木本高で理 解深める講座	中日新聞	14面 (くろしお版)
2023/11/6	全体	新聞	来やすく居心地よく 進む高校図書館離 れ対策 https://www.chunichi.co.jp/article/802177	中日新聞	10面 (三重版)

掲載日/報道日	校名	媒体	記事名/コーナー名	新聞名/番組名	掲載面
2023/11/14	いなべ	新聞	図書館に欲しい漫画 投票 いなべ総合学園高で生徒ら「模擬選挙」「小選挙区」と「比例代表」で購入決定 https://www.chunichi.co.jp/article/806417?rct=mie	中日新聞	16面 (北勢版)
2023/12/14	津	新聞	漫画界の現場 将来は ジャンプ元編集長が答える 津高OB茨木氏、母校で ヒットは手数、AIと二極化 https://www.isenp.co.jp/2023/12/14/103247/	伊勢新聞	2面
2023/12/14	津	新聞	元ジャンプ編集長が講演 母校の津高 業界の裏話や今後語る https://www.chunichi.co.jp/article/822003	中日新聞	14面 (津市民版)
2023/12/18	伊賀白鳳	テレビ	i-cityニュース	i-cityニュース	
2023/12/17	伊賀白鳳	新聞	高校生互いに刺激 図書館カフェ 本・スイーツどうぞ	読売新聞	23面 (伊賀版)
2023/12/21	津	新聞	津高図書館に手作り「黒板本棚」 伊賀白鳳高工芸部が製作 https://www.chunichi.co.jp/article/825488?rct=mie	中日新聞	16面 (津市民版)
2023/12/21	鳥羽	テレビ	鳥羽 江戸川乱歩について学んだ成果を展示 https://www3.nhk.or.jp/lnews/tsu/20231221/3070011953.html	NHK まるっと！みえ	
2023/12/23	木本	新聞	本の魅力ボードゲームで 熊野・木本高中 中日新聞 https://www.chunichi.co.jp/article/826711?rct=mie	中日新聞	20面 (くろしお版)
2024/1/25	伊勢工業	新聞	生徒が「アイデアタワー」設置 図書館に交流機能	中日新聞	14面 (伊勢志摩版)
2024/1/31	木本	新聞	本を読もう！モデル校に 木本高校 県教育委員会選定	南紀新報	
2024/2/3	木本	新聞	読書活動の推進で 木高図書委員市立図書館へ手作りPOP	吉野熊野新聞	
2024/2/4	伊勢工業	新聞	図書館改装 生徒が提案「私語 OK」交流・発表の場に 設計、製作 配線も	読売新聞	31面 (地域)
2024/2/9	木本	新聞	手作りPOPで紹介 木本高校図書委員のオススメ本	紀南新聞	
2024/2/17	津	新聞	「津高生の推し本」ネットで紹介 本を探す手助けに 感想文とセットで https://www.asahi.com/articles/ASS2J73XZS28ONFB001.html?iref=pc_pref_top_mie	朝日新聞	27面 (三重)
2024/2/21	津	新聞	「津高生の推し本」ウェブで公開 学校図書館 感想をデータベース化 本探しのきっかけに 他校と連携構想も https://www.chunichi.co.jp/article/856437?rct=mie	中日新聞	14面 (津市民版)
2024/3/15	津・いなべ	ラジオ	Pick up On Mie ～POMie！（ポミー）～	レディオキューブ FM 三重	

ひとが集まる
学校図書館のつくりかた
～県立学校図書館活性化指針～

令和6年3月

三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課

〒514-8570 三重県津市広明町 13 番地

TEL 059-224-3322 FAX 059-224-3023

E-mail : shabun@pref.mie.lg.jp

三重県学校図書館協議会

(協議会事務局) 〒514-0042 三重県津市新町3丁目1-1 三重県立津高等学校内

TEL 059-229-7950 FAX 059-229-7950